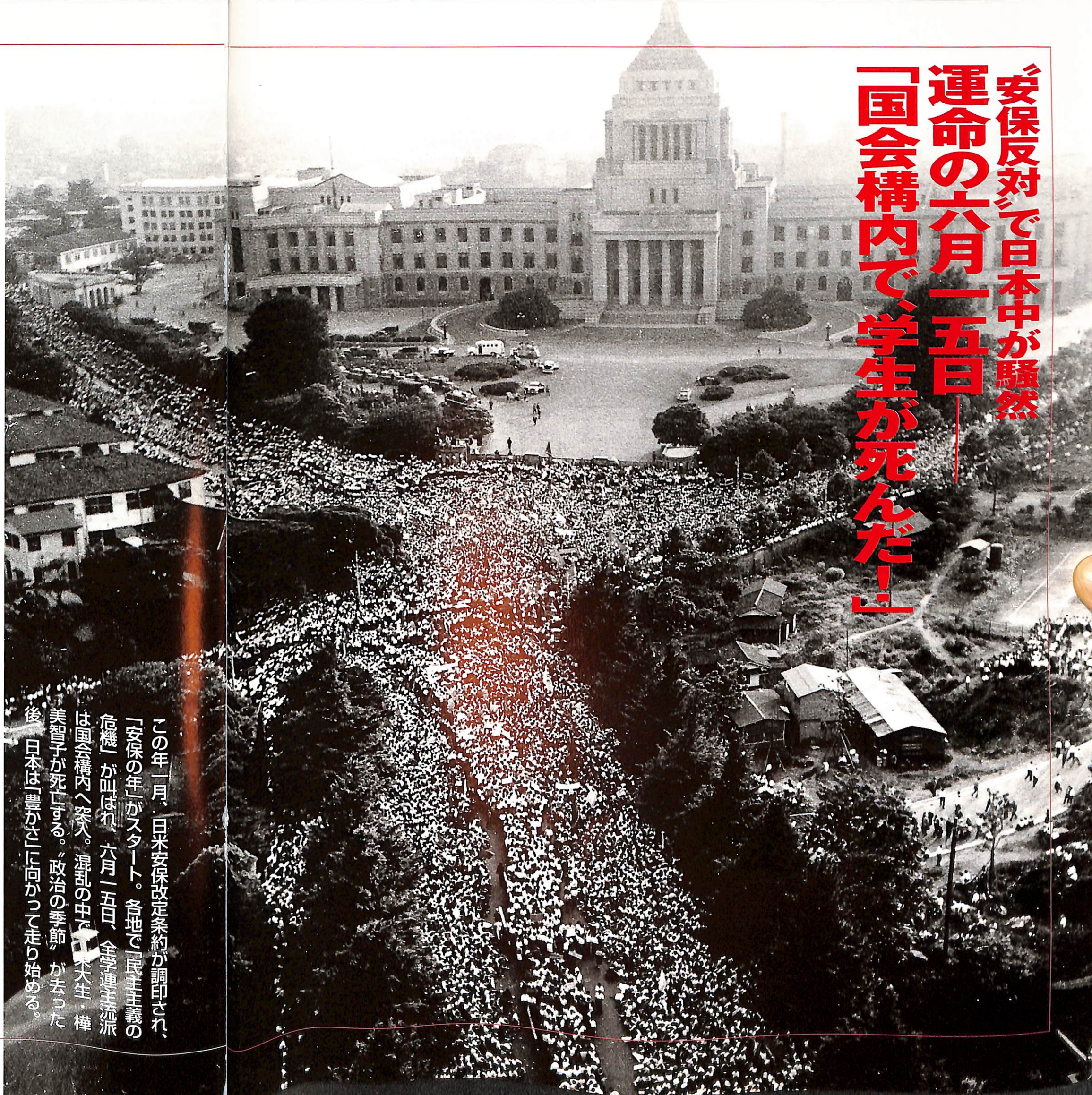
週刊 YEAR BOOK

1960 昭和35年 日録20世紀

4|29
平成9年4月29日発行
(毎週1回発行)第1巻第11号
¥560
講談社

安保闘争、運命の6月15日

10年で月給2倍!「所得倍増論」の狙い
"社会派推理"松本清張ブーム
独立後1週間で内乱、コンゴの悲劇

“安保反対”で日本中が騒然
運命の六月一五日――「国会構内で、学生が死んだ!」

この年一月、日米安保改定条約が調印され、「安保の年」がスタート。各地で「民主主義の危機」が叫ばれ、六月一五日、全学連主流派は国会構内へ突入。混乱の中で東大生・樺美智子が死亡する。“政治の季節”が去った後、日本は「豊かさ」に向かって走り始める。

▲強行採決が行われた5月19日、夕刻から国会周辺を埋めた約2万人の学生・労働者は夜を徹して反対を叫んだ。そして翌20日、雨の中、10万人のデモが国会をとりまいた。 田村茂

▶樺美智子の合同慰霊祭が東大で行われた6月18日、安保改定反対デモが朝から国会を包囲した。デモ参加者はこの日1日で33万人と言われ、これまでの最高だった。 朝日新聞社

全学連が国会突入 女子東大生が死亡

「このままでは、民主主義が無視される、国会に突入して安保を阻止しよう、と学生たちは燃えていた」

当時、東京大学一年生で、全学連主流派のデモに加わった江田五月（さつき）氏（元科学技術庁長官）は、三七年前を振り返る。

昭和三五年六月一五日、同じ隊列にいた樺（かんば）美智子さん（東京大学文学部四年生・二二）は、警官隊と衝突した渦中に亡くなった――。

この日は、安保改定阻止国民会議の呼びかけで、早朝から労働組合員五八〇万人が全国各地で職場集会やストに参加、鉄道も一部止まった。

東京では、国民会議が午前中から日比谷公園で集会を開き、夕刻になって国会に向かうデモには一〇万人が参加した。

前年一一月二七日、国会請願に便乗して正面玄関を突破、構内座りこみを敢行するなど、先鋭化していた全学連主流派は、これとは別行動をとり、午後二時すぎ、七〇〇〇人が国会前に集結した。

午後五時一五分頃、この日、最初の衝突が参院第二通用門前で起こった。国民会議のデモ隊に右翼一〇〇人とトラック二台が突っこみ大乱闘になったのだ。

午後五時三〇分、全学連主流派の七〇〇〇人は国会突入をはかり、国会南通用門に押し寄せた。「国会内に入って大集会を開こう」と宣伝カーが気勢を上げ、道いっぱいにスクラムを組んだ学生が門に突撃した。音を立てて門扉が倒れた。

午後六時三〇分、学生たちがなだれこむと、警官隊は放水で応戦しながら後退。

「みんなでスクラムを組み、素手で突入したのですが、待機していた警官隊が警棒で殴りかかってきて大乱闘になった。そのうち、死者（樺さん）が出たという話が伝わってきました」

と江田氏は語る。

その後、学生たちは構外に押し出されるが、午後八時、再び構内に突入。警官隊の包囲の中で、約四〇〇〇人が抗議集会を開き、死者のために一分間の黙祷（もくとう）を行った。

午後一〇時すぎ、再度、構外に押し出された学生たちは警察のトラックに放火するなど抵抗し、警官隊も催涙弾を発射しながら学生や市民に警棒をふるった。

ラジオ関東（現・ラジオ日本）の島碩（しまひろ）弥（や）アナウンサーは、現場から中継した。

◎表紙　この年の春場所千秋楽で全勝対決した若乃花（左）と栃錦（右）。
大相撲写真画報「栃若時代」口絵より　工藤写真館提供

“安保反対”で日本中が騒然

運命の6月15日――「国会構内で、学生が死んだ!」

「新安保条約」関連略年表

◀五月一九日深夜、自民党が単独強行採決を行った瞬間。写真中央は清瀬一郎衆院議長。共同通信社

年	月日	出来事
昭和34年	3月23日	●文化人懇談会、安保改定批判声明。
	3月28日	●安保改定阻止国民会議結成。
	11月27日	●第8次統一行動。請願デモ隊国会に入る。
昭和35年	1月16日	●岸首相の調印渡米を阻止する学生約700人が羽田空港に座りこみ。
	1月19日	●日米両国、ワシントンで新安保条約に調印。
	5月19日	●衆院安保特別委が、自民党単独で50日間の会期延長を可決。
	5月20日	●衆院本会議で新安保条約などを承認。
	6月 4日	●第1次実力行使。参加者560万人。
	6月10日	●ハガチー米大統領新聞係秘書来日。デモ隊に囲まれ、ヘリコプターで脱出。
	6月15日	●第18次統一行動。全学連主流派が国会突入、樺美智子死亡。
	6月17日	●新聞社7社が、「暴力を排し、議会政治を守れ」との「7社共同宣言」を発表。
	6月18日	●東大で樺美智子合同慰霊祭。国会周辺では33万人がデモ。
	6月19日	●午前零時、新安保条約「自然承認」。
	6月22日	●第19次統一行動。111単産620万人が参加、閉店スト6万店。
	6月23日	●新安保条約批准書交換。岸首相退陣表明。

▼6月10日、ハガチー米大統領新聞係秘書が来日したが、東京・羽田でデモ隊に自動車を包囲され、ヘリコプターでようやく脱出する。

毎日新聞社

●安保改定阻止国民会議の統一行動が行われた6月15日、全学連主流派の学生約7000人が国会南通用門から構内に突入した。包囲の隊形をとった警官隊は、午後7時頃、一斉に実力行使、混乱の中で、一人の若い生命が奪われた。毎日新聞社

「警官隊によって今、……首をつかまれております。今実況放送中でありますが、警官隊が私の顔を殴りました。そして首っ玉、ひっつかまえて、お前、何しているんだというふうに言っております」

国民が政治に参加した安保闘争の盛り上がり

旧安保条約は、米軍が日本国内の内乱や騒擾に対して出動できると規定するなど、日本が属国扱いされていた。その改定は岸信介首相の強い意志だった。二年余の協議を経て、昭和三五年一月一九日、新安保条約が日米間で調印され、国会の批准を待つばかりになった。

しかし、国会で条約の審議が進むと、国民の不安が高まった。極東の平和維持のために、米国が日本国内に基地を置くことができるという条約の規定は、東西冷戦の高まりの中で、日本が外国の紛争に巻きこまれる危険を招くと考えられたからだ。

野党や革新勢力は、前年の昭和三四年三月に安保改定阻止国民会議を結成して反対運動を続けてきたが、三五年五月一九日深夜、自民党が単独で五〇日の会期延長を強行採決、さらに翌二〇日午前零時、新安保条約を採決すると、戦後最大の大衆政治運動へと盛り上がっていく。

国民会議の呼びかけで行われた六月四日の第一次実力行使に続き、運命の六月一五日は第二次実力行使の日だった。

新安保条約が自然承認（衆院議決から三〇日後）される六月一九日の前日にあたる一八日、安保闘争を通じて最高の三三万人が、樺さんを悼む喪章、黒リボンをつけて国会デモを行った。深夜になっても四万人が国会をとりまき、シュプレヒコールの渦巻く中、一九日午前零時、条約は自然承認された。

六月二三日、第三次実力行使が行われたが、翌日、日米間で批准書が交換されて新条約は効力を発し、岸首相は退陣を表明した。

それにしても、なぜ安保闘争はこれほど盛り上がったのか。当時、率先してデモに参加したという鳴海正泰氏（関東学院大学教授）がこう語る。

「ひとことで言えば、戦後一五年たち、新憲法のもとで民主主義を身につけた人人が、憲法精神に反する安保条約の内容や強行採決に強く反発したことです。都市化が始まり、労働組合や政党の枠を超えて、みずから運動を作ろうという市民が台頭したことも大きな特徴で、この動きが市民運動につながっていきました」

その後、各地で革新自治体が誕生し、反公害運動や消費者運動もさかんになる。安保闘争がまいた種は花開くのである。

一〇年で月給を二倍にします!
池田首相「所得倍増論」の狙いと成果

▲池田勇人は、吉田学校の優等生、保守の切り札といわれた。安保後の厳しい政治情勢下に火中の栗を拾うべきでないとする声もあったが、聞かなかった。政策を聞かれると「経済しかない」と答えた。左から吉田茂、池田、佐藤栄作。 野上透

▲八幡製鐵(現・新日鐵)戸畑製造所の溶鉱炉の火入れ式。日本は次々と新技術を導入した。 毎日新聞社

二万四三七五円——はがき一枚五円、タクシーの初乗り八〇円という時代の、勤労者の平均月給である。それが一〇年で二倍になると言う。「ウソだ」とおおかたの人が思った。しかし七年後、平均月給は四万八七一四円になっていた。

自信まんまんの池田、追いつけないマスコミ

「私は今後一〇年間で、皆さんの月給を二倍にいたします。経済のことはこの池田におまかせください」

七月一九日、第三八代首相となった池田勇人(六〇)は、就任直後の記者会見で正式に「所得倍増論」を打ち出した。

所得倍増論の骨子は、重化学工業化を基軸に国民総生産(GNP)を拡大させる一方で、道路整備を中心に公共投資を大幅に増加する。また、低金利政策を採用して設備投資意欲を喚起する。その結果、一〇年後には国民所得が二倍になるというものだった。まず第一段階として、当初三年間の経済成長率を九%に設定してスタートした。

当時の一人当たりの国民所得は一三万八〇〇〇円、アメリカの八分の一、西ドイツの三分の一の水準でしかなかった。

池田内閣の発足は、日米安保条約をめぐって国論が二分された興奮状態がまださめやらぬ頃。この時期になぜ「所得倍増」だったのだろうか。

池田の経済政策立案上のブレーンとして知られる故・下村治は次のように語っていた。

「私どもは主観的には、所得倍増政策で安保騒動はなくなるのだという見通しを持って打ち出したといえます。安保の混乱を消すためではなく、高度成長政策を採れば、混乱は消えるのだということですね」(『一億人の昭和史』〈七〉毎日新聞社)

ささくれだった政治的対立を、ばら色の経済大国の夢を提示することによって、乗り切ろうとしたというのだ。

このチェンジ・オブ・ペースは当事者が意図した以上に国民の心をとらえていった。池田の秘書官として首相の一挙手一投足を見続けた伊藤昌哉(現・政治評論家)が言う。

「最初は誰も信じなかったんですよ。できるはずがない、と言ってね。政治家が、またでたらめを言うだの、大風呂敷だの何だのとね。ただ、池田さんは自信を持っていた」

こうした政策や政治姿勢の演出をしたのは、前尾繁三郎(後の衆議院議長)、大平正芳(後の首相)、宮沢喜一(同)、黒金泰美(後の官房長官)ら池田の側近グループだった。この年の秋に行われた総選挙は、安保の後だったことに加え、選挙直前に浅沼稲次郎社会党委員長が右翼の少年に刺殺されたこともあって、自民党の不利が取りざたされていた。だがおおかたの予想に反して、池田自民党は無所属の追加公認を加えて、三〇〇議席を獲得し、圧勝した。

五年で「倍増」達成、深刻な「ひずみ」も

これを受けて、池田は本格的に所得倍増・高度経済成長政策を推進する。そして一〇年で達成されるはずの所得倍増計画は、五年後の昭和四〇年度に早くも達

成（一人当たりGNPが二六万二〇〇〇円）されるのである。また冒頭に記したように、月給は七年で倍になり、それにともなって一世帯当たりの消費支出も、昭和三五年の三万二〇九二円が、八年後には六万七四〇二円と倍増している。

もっともこの間に物価も上がった。たとえば東京周辺での昭和三五年から四五年にかけての物価を見てみると、一丁一五円だった豆腐が三五円に、大人一七円だった銭湯入浴料が三七円に、もりそば一杯は三五円から一〇〇円へと大幅な値上げになっていた。ちなみに、総理大臣の月給も、二五万円から六六万円強へと、二倍をはるかに超えるようになっていたのである。

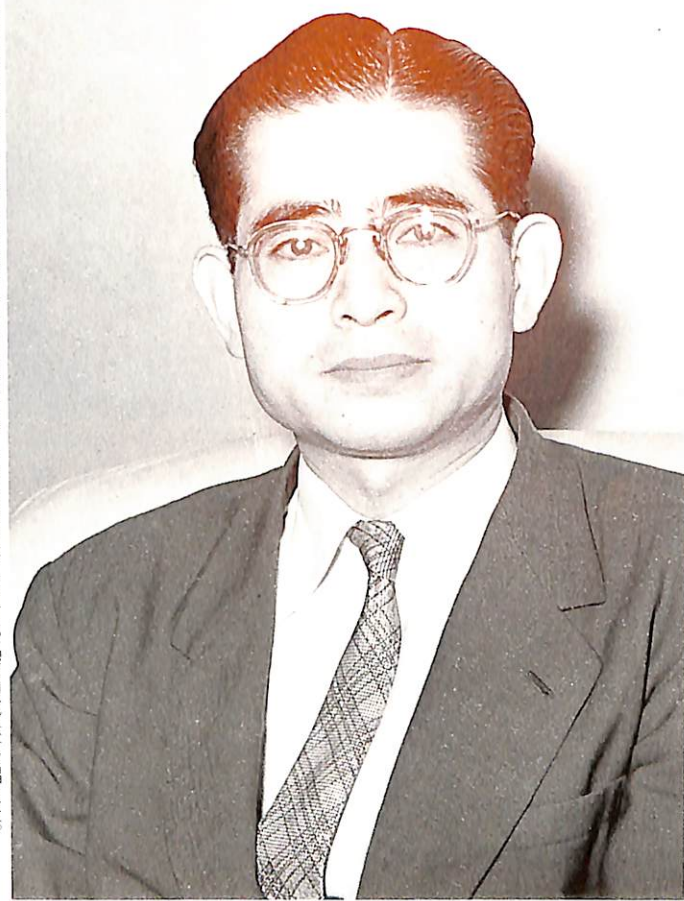
一方で、テレビなどの耐久消費財は量産・技術革新により、実質的に値下がりをしていった。「3C」と言われたカラーテレビ、カー、クーラーに手が届くようになり、多くの人が豊かな消費生活を実感できるようになったのである。

さらに日本は、GNP世界二の座に向かって走り始める。

しかし、その「ひずみ」もやがて噴出することになるのである。「池田総理は生前、『公害』という言葉を口や耳にしたことがあったでしょうか」という質問に、宮沢喜一は、あっさりこう言ったという。

「いや、ありますまい。生前、目を通した官庁書類には、その字句は見かけませんでしたから」（塩口喜乙『聞書池田勇人』）

池田は、〝奇跡の成長〟の開花期を見ただけで鬼籍に入り、環境・公害問題、物価高騰をはじめ、高度成長の負の部分を目にすることはなかったのである。

▲昭和35年の東京・丸の内、三菱本館前。「5時のサラリーマン」という表題をつけられた写真である。 長野重一

▲池田の高度成長政策を経済理論面で支えた下村治。一九七〇年代には一転、「ゼロ成長」を唱えた。

女たちの肖像

学問か、学生運動か 時代を生き切った東大生・樺美智子

稲葉真弓

若者の死の中で、時代と切り離すことのできない、しかも〝政治的な死〟があるとするならその代表はなんと言っても樺美智子だろう。六〇年安保の象徴、〝学生運動のジャンヌ・ダルク〟として語り継がれている彼女の死は、六月一五日、安保改定反対の国会議事堂前デモの中で引き起こされた。

▲政治闘争で初めての犠牲者となった樺美智子。

この日、国会南門前に集まった全学連主流派の学生は約七〇〇〇人。なだれをうって構内に乱入した学生らは警官隊と激突し、激しい放水と催涙弾の中で双方乱闘となった。その騒ぎの中、東大文学部の学生・樺美智子（二二）が死亡するという、国会史上初の流血事件となったのである。

解剖所見では、死因は①窒息死、②圧迫による内臓出血、③前の二つが同時に起きた、とされた。が、いつどこでどのように死にいたったのかという明快な答えは出なかった。検察側は人なだれ現象を主張、一方、まわりにいた学生らの証言などから調査委員会は警官の暴行によるものという判断を示した。死因をめぐる対立はその後も長く尾を引いたが、結局「不明」として処理され、謎のまま昭和史に残されている。

この日、女学生が殺されたというニュースは日本全国に大きな波紋をもたらした。一六日朝には彼女の死を悼む学生、市民らおよそ三万人が国会前から警視庁前を埋めつくし、一日中抗議のデモが続いた。一八日は東大で合同慰霊祭が行われ、参加者は国会にデモ行進。この時はおよそ三三万人が集まった。しかし、新安保条約は一九日「自然承認」により国会を通過。

学生、市民らの声は七〇年安保反対運動につながる大きな足跡を残した。

樺美智子は昭和一二年、兄が二人いる末娘として東京に生まれた。中央大学教授の父・俊雄の影響を受けて学問好き。芦屋中学、神戸高校ともに首席を争う優等生だった。高校卒業後、一浪して東大に入学し共産党に入党。二年後に脱党した後は、全学連主流派のブントの一員として、デモや集会に出かけるようになるが、素顔は闘士というよりもむしろ勉学生活を望む女学生で、死の直前にも友人と「卒論」について話していたという。

学問か学生運動か。二つの思いに揺れつつ、ひたむきに今を生きようとした真摯な人柄と心の軌跡は、遺稿集『人しれず微笑まん』に余すところなく記されている。

勝者・敗者

正統派の演技でソ連を圧倒 ローマ五輪で金三つ獲得 小野喬と〝体操ニッポン〟

阿部珠樹

九月、ローマで開かれたオリンピックの男子体操では、日本チームとソ連チームが激しい一騎打ちを繰り広げた。

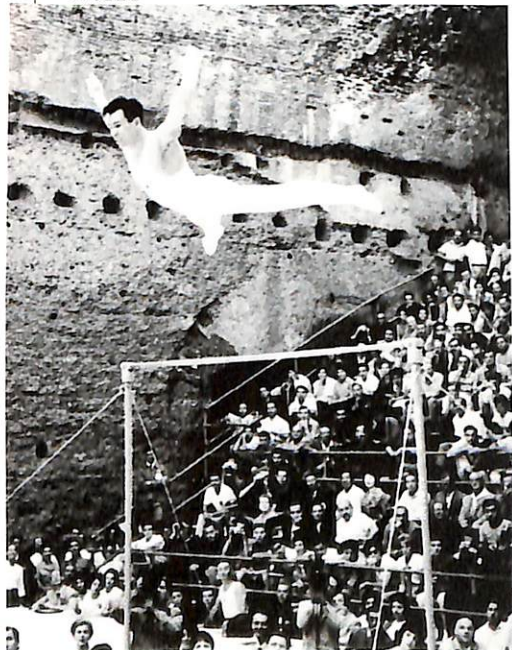
前半の焦点は団体戦。昭和二七年のヘルシンキ、三一年のメルボルンと金メダルを獲得したソ連が王者の力を見せつけてリードするが、団体戦初の金メダルに燃える日本が逆転、それをソ連が急追するという息もつかせぬ展開となった。結局、日本が逃げ切り、金メダルを獲得する。

その原動力になったのが、エース格の小野喬（二九）だった。小野は個人総合でもソ連のシャフリンと死闘を展開し、わずか〇・〇五の差で金メダルを逃すが、最後に残された種目別では、そのうっぷんを晴らす大活躍を見せる。

まず跳馬でソ連の二選手と壮絶なデッドヒートを展開し、同点一位でこの大会二つ目の金メダルを獲得すると、最後の種目、鉄棒にのぞむ。鉄棒は小野の独壇場だった。まるで鉄棒を振りまわすような力強い技を次々に決め、会場のカラカラ浴場跡競技場を埋めた五〇〇〇人の観客を圧倒する。着地を終えると、ライバルのソ連チームの監督までが微笑みかけるほどのみごとな演技だった。二回の演技でともに、最高点の九・八〇を出した小野は、個人総合で優勝を逃した悔しさを補ってあまりある、この大会三つ目の金メダルを獲得する。

男子団体の優勝と、小野の活躍は、「体操ニッポン」の誕生を世界中に告げるトキの声だった。この大会を境に、男子体操の覇権はソ連から日本に移り、日本は、一九七〇年代まで長い王座を保つのである。

ヒーローとなった小野は、典型的な日本人体型で、けっして見栄えのする選手ではなかった。採点上の不利をこうむることも少なくなかった。しかし、「体操は軽業ではない。あくまでも美の表現だ」という強い信念を持ち、正統派の演技を貫き通した。その一本気な意志の強さが、次回の東京オリンピックで選手宣誓をまかされた最大の理由だったのだろう。

共同通信社

▲4回の五輪出場で金5、銀4、銅4を獲得。

1月

毎日新聞社

▲三池炭鉱労組、無期限ストに突入（1月25日）前年12月に三井鉱山が打ち出した1278人の指名解雇に反対。282日間におよぶ大争議の幕開けとなった。写真は21日の集会。

▶石油の自主開発、実現（1月29日）アラビア石油がペルシア湾で開発中の油田で、日産1000キロリットルの出油に成功。翌年3月には日本への「国産石油」積み出しが始まった。

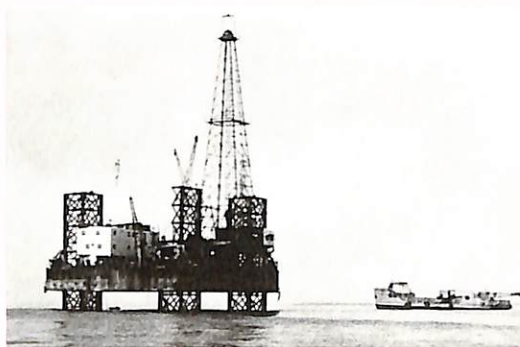
▼トニー・ザイラー取り調べ（1月29日）冬季五輪のアルペン三冠王ザイラーが、松竹映画「銀嶺の王者」を撮影するために来日したが、無査証入国で法務省の事情聴取を受けた。

アラビア石油提供

毎日新聞社

毎日新聞社

▲見物客でにぎわう名古屋城（1月2日）戦災で焼失したが、前年10月に天守の復元工事が完了。伊勢湾台風後の混乱も一段落したこの日、甦った城を一目見ようと、3万人が詰めかけた。

▼マンホールからガス漏れ（1月27日）東京都江東区深川で住民二人が中毒死、32人が重軽症という騒ぎになった。前年末から同様の事故が頻発し、40人を超える死者が出ていた。

毎日新聞社

昭和35年1月

1（金）●津田塾大、ランゲージ・ラボラトリーを設置。●独身女性向けの雑誌「マドモアゼル」創刊。

2（土）●ヒマラヤ遠征をめざす女性五人、厳冬期の北アルプス五竜岳に登頂。

3（日）●北朝鮮赤十字、残留日本人調査に協力を表明。

4（月）●中卒者入社試験始まる。労働条件改善の傾向。

5（火）●貿易為替自由化促進閣僚会議の設置が決まる。●帝国石油、新潟県大潟町で世界有数規模の天然ガス層を発見した、と発表。

6（水）●横須賀市の病院で火災。新生児ら一六人死亡。

7（木）●新島で住民がミサイル試射場の測量を阻止。●福岡県大任町でぼた山崩落。女性七人が死亡。

8（金）●駐日韓国大使、日本が韓国米輸入の約束をはたさなければ日本からの肥料購入を中止と言明。

9（土）●エジプトで、アスワン・ハイダム起工。

10（日）●神奈川県大磯町で、電子計算機プログラミング第一回シンポジウム開催。

11（月）●文学者・芸術家らが安保批判の会総会を開催。

12（火）●南ベトナムと賠償・借款協定批准書を交換。●八丈島沖で岩手県の漁船が沈没。一四人不明。

13（水）●石炭鉱業整備事業団、合理化事業団に改組へ。

14（木）●陸上自衛隊、東京・市谷に東部方面隊を創設。

15（金）●全学連、安保調印団阻止で羽田空港を占拠。

16（土）●英文学者・中野好夫らが、入手困難な沖縄の情報収集を目的に沖縄資料センターを設立。

17（日）●北海道・東北に猛吹雪。雪崩で七人が死亡、漁船遭難で五三人が死亡・行方不明。

18（月）●相撲協会、年寄などに定年制実施を決定。

19（火）●日米相互協力および安全保障条約、調印。

20（水）●民間技術者がカラーテレビ受像機の公開実験。

21（木）●郵政省、虚礼廃止問題で年賀状の存廃を検討。

22（金）●最高裁、公安事件の「荒れる法廷」対策を協議。

23（土）●厚生省、ソ連からの未帰還者中三四人の死亡を新たに確認し発表。死亡者は一一六二人に。

24（日）●民主社会党結成。委員長に西尾末広。●作家火野葦平、若松市の自宅で睡眠薬自殺。

25（月）●三池炭鉱労組、全山で無期限ストに突入。

26（火）●岐阜県、教組専従者への昇給を停止と発表。

27（水）●ソ連、新安保条約を非難し「日本に外国軍が駐留するかぎり歯舞・色丹島を返還せず」と表明。

28（木）●静岡市、競輪の送迎バスなどを廃止と決定。

29（金）●アラビア石油、クウェート沖で石油試掘成功。

30（土）●参院の緑風会、議席数減少のため解散を決定。

31（日）●関東の二五団地が公団住宅自治会協議会結成。

ニュース・ファイル 1960

フォト＋日録で再現する366日

「アンポ・ハンタイ」を叫んで国会をとりまく数十万のデモ隊。騒然とする世相下、カラーテレビの本放送が始まり、自動車ローンが登場、航空機利用客は一〇〇万人を超えた。身障者雇用促進法公布、大学進学の男女差急接近。社会はその基部から姿を変え始めた。

◀石原裕次郎結婚（12月2日）映画「嵐を呼ぶ男」などで共演した女優・北原三枝と東京の日活国際会館で挙式。人気スター同士とあって招待客は長嶋茂雄、力道山など400人、取材陣120社というにぎやかさだった。

毎日新聞社

WWP

▲モロッコで大地震(2月29日)カサブランカ南方の海岸にある保養地アガディールが壊滅状態になり、津波と火災が加わって約1万人が死亡した。写真は3月4日、瓦礫の中から犠牲者を運び出す救援隊。

朝日新聞社

▲北海道の北炭夕張炭鉱でガス爆発(2月1日)坑底に43人が閉じこめられ、うち42人が死亡した。写真は坑内に残るガスを冒して突入した同僚の救助隊員に運び出される犠牲者。

▶美智子妃、浩宮を出産(2月23日)翌日正午、祝賀の記帳所が設けられると、たちまち長蛇の列ができた。29日、昭和天皇が浩宮徳仁親王と命名。写真は3月12日、宮内庁病院を退院される美智子さん。

毎日新聞社

◀前進座、中国公演に出発(2月6日)河原崎長十郎団長以下総勢70人。15日の北京公演を皮切りに、6市で歌舞伎を披露し、4月6日に帰国。写真は、浅沼稲次郎らの見送りにこたえる一行。

朝日新聞社

▶日本初の技能士検定試験(2月25日)機械工、板金工など5職種を対象に労働省が実施。前月10日の学科試験に続いて東京・晴海の貿易センター(写真)などで実技試験が行われた。

昭和35年2月

1(月)●北炭夕張炭鉱でガス爆発。四二人死亡。
●東京・丸の内に初の地下駐車場が完成。
2(火)●一七年にシンガポール港内で沈没した「伊三〇号」潜水艦乗員の遺体一一体が帰還。
3(水)●国税庁、三四年度路線価発表。前年比二四㌫高。
4(木)●松川事件弁護団、田中最高裁長官の罷免請求。
5(金)●通産省、工業地帯の大気汚染本格調査を決定。
6(土)●劇団前進座、中国公演に出発(4月6日帰国)。
7(日)●東京二三区内の電話局番がすべて三ケタに。
8(月)●大蔵省、渡航外貨制限の緩和、外国向け雑送金自由化など、為替自由化措置を実施。
9(火)●文部省、教組の教科書自主採択を牽制するため、「教科書採択の秩序について」を通達。
10(水)●厚生省、最大九割引きの薬乱売を問題視し、品質保持のための検査実施を都道府県に通達。
11(木)●東京高裁、少女暴行事件で電話による告訴は無効との一審判断を支持し、控訴を棄却。
12(金)●全日本海員組合、老朽船での航海を乗組員に強いた坂谷商船に幹部総退陣を要求。
13(土)●フランスがサハラで核実験。第四の保有国に。
14(日)●三池炭鉱主婦会、一万三千余人で総決起大会。
15(月)●全国進駐軍被害者連、政府に補償要求と決議。
16(火)●東京地裁、検事調書を省略して審理を行うスピード裁判方式を殺人未遂事件に適用。
17(水)●エンゲル係数が四〇㌫切ると総理府家計調査。
18(木)●第八回冬季五輪スコーバレー大会開幕。
19(金)●衆院安保特別委員会が審議開始。社会党が国会による条約修正権を主張し紛糾。
●択捉島沖合で釧路市の漁船転覆。一五人不明。
20(土)●東京株式市場ダウ平均が初の一〇〇〇円台に。
●東京・葛飾区で「緑のおばさん」が組合を結成。
21(日)●香川県警、捜査費不足のため給料一㌫天引き。
22(月)●福岡県大任町の中学で就職組と進学組が乱闘。
23(火)●皇太子妃、男児を出産(浩宮徳仁親王)。
24(水)●東京都教委、ベビーブーム世代の入学を控え小学校の余剰教員を中学へ配転と決定。
25(木)●文化財保護委、宮城県松島に観光タワー建設を強行する松島観光開発に再び停止命令。
26(金)●宮城県対ガン協会角田支部、無料検診を実施。
27(土)●魚が重油臭いとの苦情続出で、都が検査通達。
28(日)●市川市で手製ピストルが暴発し中学生が死亡。
29(月)●宮城県村田町で赤痢患者が一五三〇人に。
●米国務省、第一回低開発国援助会議に日本の参加を認めると通知。

▲名古屋空港滑走路で激突事故(3月16日)全日空機は機体を切断され、死者3人、負傷者10人。自衛隊のF86戦闘機は炎上(乗員は脱出)。原因は管制ミス。

WWP

▶初の日本人枢機卿誕生(3月28日)バチカン宮殿で法王ヨハネス23世が東京大司教の土井辰雄を親任、「赤い帽子」を授与した。枢機卿は法王に次ぐ地位。

読売新聞社

▲清宮、島津久永氏と結婚(3月10日)東京・芝高輪の光輪閣で挙式。昭和天皇第5皇女の清宮貴子内親王が庶民の仲間入りをした。新郎は日本輸出入銀行社員。写真は式後の記者会見にのぞむお二人。

朝日新聞社

▲李ラインの犠牲者帰国(3月31日)日韓相互交換交渉により釈放された日本人漁船員の第一陣167人が、釜山収容所から下関に到着した。この時日本側は344人の韓国人漁船員を釈放した。

読売新聞社

▶社会党委員長に浅沼稲次郎(3月25日)臨時全国大会で右派の河上丈太郎と決選投票、228対209の小差で勝った。挙党体制は維持されたが、浅沼の党内基盤の弱さが現れた。書記長は江田三郎。

昭和35年3月

1(火)●岐阜県の高校で卒業生三〇人が教師に暴行。
2(水)●横浜市の歌謡ショーで観客混乱。一二人圧死。
●尼崎市で暴力団員がピストル乱射。二人死亡。住民の暴力追放運動高まる。
3(木)●老齢・障害・母子、各福祉年金の支給開始。
4(金)●パラグアイへの入植移住希望者の募集開始。
5(土)●福井県婦人団体連絡協、青少年の不良化防止のために憩いの場として「土曜喫茶」を開く。
6(日)●三池炭鉱社宅で会社側宣伝車が労組員を轢く。
7(月)●大気汚染調査研究会、東京でスモッグ調査。
8(火)●全国千余ヵ所で国際婦人デー五〇周年集会。
9(水)●三池労組、スト破り勢力台頭に非常事態宣言。
10(木)●沖縄・伊江島の米軍射撃場で、弾丸などを拾っていた二青年が米軍機に撃たれ重傷を負う。
11(金)●生命保険二〇社、契約者配当の自由化を決定。
12(土)●那珂湊沖で漁船と貨物船衝突。一二人不明。
13(日)●警視庁、初の速度取締り。三八一人検挙。
14(月)●運輸省、自衛隊機の羽田空港使用自粛を要請。
15(火)●日本科学技術振興財団(会長・倉田主税)設立。
16(水)●名古屋空港で自衛隊機と全日空機が衝突。
17(木)●道路公団、世銀と道路借款契約結ぶ。日本初。
18(金)●鶴岡市保健所、高松宮宿泊予定のホテル従業員に「四つんばい検便」を強要(22日にも)。
19(土)●安保改定阻止「一千万署名簿」、国会に提出。
●日韓、両国抑留者の相互交還交渉に妥結。
20(日)●松川事件対策協、差し戻し公判控え現地調査。
●大相撲千秋楽、栃・若が横綱同士全勝対決。
21(月)●南アフリカで、人種差別反対運動に警官が発砲、六九人死亡(シャープビル事件)。
●新日窒水俣工場前で漁民が無期限座りこみ。
22(火)●熊野川発電所工事現場で爆発。二三人死亡。
23(水)●集団就職者がホームシックにより帰省するのを防ぐため、上野駅に職業相談所開設。
24(木)●東京で、国際新聞編集者協会第九回総会開催。
25(金)●社会党委員長に浅沼稲次郎が選出される。
●衆院安保特別委、極東の範囲めぐり紛糾。
26(土)●ゴダール監督の映画「勝手にしやがれ」封切。
27(日)●三池鉱業所、第二組合へのロックアウト解除を表明(翌日、就労再開で第一組合と衝突)。
28(月)●土井辰雄、日本人初の枢機卿に。
29(火)●建設省、熊本県下筌ダム建設予定地の測量を強行。反対派住民は「蜂の巣城」に籠城。
30(水)●新潟・見附油田一一号井、日産二〇〇[illegible]と判明。
31(木)●じん肺法公布。粉塵が原因のじん肺を予防。

▲韓国で四月革命、李政権崩壊(4月26日)19日、大統領選挙の不正に怒って官邸に押し寄せた市民に軍が発砲、100人以上が死亡。この日、デモ隊は50万人に膨れ上がり、議会も大統領の即時辞任を要求、李承晩は27日辞任した。

日刊スポーツ

▲巨人の別所毅彦、プロ野球最多の302勝達成(4月29日)東京の後楽園球場で行われた対阪神戦で勝利投手となり、故スタルヒンの記録を破った。プロ17年目。前年は7勝で、この年はまだ未勝利だった。

毎日新聞社

◀「沖縄返還貫徹大行進」東京入り(4月28日)沖縄の祖国復帰運動が高まる中、1月21日那覇市を出発、各地の労組員に引き継ぎながら2500キロを踏破した。この日那覇市では、革新系団体を中心に沖縄県祖国復帰協議会が結成された。

毎日新聞社

◀京葉道路開通(4月28日)道路公団が昭和32年に着工、総工費18億円で完成させた。延長8886メートル。乗用車100円、トラック110円で、従来40~50分かかっていた東京—船橋間が十数分になった。

▲「団塊の世代」中学生に(4月4日)昭和22年生まれのベビーブーム第1号がどっと入学、生徒数は前年の70万人増となり、教室不足が問題になった。写真は東京都千代田区、一橋中学校の入学式。

昭和35年4月

1(金)●ウイリアム・ワイラー監督、チャールトン・ヘストン主演の映画「ベン・ハー」封切。
●情報処理学会設立(会長・山下英男)。
2(土)●暴力団員が記事への報復で毎日新聞社を襲撃。
3(日)●湯川秀樹の脱退宣言などで分裂状態にあった世界平和アピール七人委員会、存続を決定。
4(月)●韓国、日韓貿易再開の決定を外務省に通告。
5(火)●日赤などが太平洋戦争中日本で死亡した中国人捕虜七千余人の名簿を完成、と新聞に。
6(水)●主婦連、米の自由販売を農林省に要請。
7(木)●警視庁、サド『悪徳の栄え』を猥褻として押収。
8(金)●春の選抜高校野球大会で高松商業が優勝。
9(土)●松竹、経営難で無配決定(30日、社長退任)。
10(日)●周恩来中国首相、「日本は戦争策源地」と批判。
11(月)●新丹那トンネル工事現場で落盤。三人死亡。
12(火)●清浦東工大教授、水俣病は「魚の毒」と発表。水銀説の熊本大教授ら、ただちに反論。
13(水)●超党派の女性議員が酔っ払い規制法案を作成。
14(木)●社会党、歴史教科書検定に際し著者に圧力をかけたと参院文教委員会で調査官らを追及。
●人民艦隊事件(30年)で検察控訴せず無罪確定。
15(金)●外務省、航空自衛隊の次期戦闘機F104Jは日米共同生産と発表。
16(土)●三浦半島と城ケ島を結ぶ城ケ島大橋が開通。
17(日)●炭労大会、三池争議の中労委斡旋案を拒否。
18(月)●三池炭鉱で警官三千余人動員し第二組合入構。
19(火)●韓国、李承晩糾弾闘争の激化に戒厳令を布告。
20(水)●テレビ・ラジオのために小・中・高生の読書時間が減少傾向と、都教育庁調査。
21(木)●中島健蔵らが「日中を結ぶ国民の集い」開催。
22(金)●神奈川県、列車便所の汚物を走行中に排出しないよう、鉄道管理局に要請と決定。
23(土)●分村問題に揺れる栃木県桑絹村村長選に、選挙の混乱をねらって二六七人が立候補。
24(日)●日本野鳥の会調査で、この冬飛来のハクチョウ約一〇〇羽が猟銃ブームの犠牲、と新聞に。
25(月)●京都府警、不審火が続く美山町で放火犯と疑わしい人物を聞くアンケートを全町民に配付。
26(火)●韓国で反政府運動頂点、ソウルでデモ隊が大統領官邸を包囲(27日、李承晩大統領辞任)。
27(水)●特定街路(五輪道路)建設仮事務所が事業開始。
28(木)●沖縄県祖国復帰協議会、結成。
29(金)●千葉県天羽町で東京湾フェリーの開航式挙行。
30(土)●ソニー、世界初のトランジスタテレビを発売。

証言・あの日この日

共同通信社

蓮實重彦(24)

6月15日(水) 〈アルバイト先の田中千禾夫氏宅の玄関さきで、田中澄江氏から、女子学生が一人死にましたと聞き、それが樺美智子であると直観。とって返して溜池のあたりをうろつく。助手清水徹、頭を機動隊に殴打され仏文研究室は沸きたつ〉(蓮實重彦「自筆年譜」)

60年安保の時には、いわゆる進歩派だけでなく保守派と言われる人(たとえばドイツ文学者の高橋義孝)までが改定に反対した。つまり人々はさまざまな心情でこの日を迎えた。この年春、大学院に進んだ蓮實重彦も、後のシニカルであからさまに本音を吐露しない彼からは想像もできない興奮ぶりだ。さらに彼はこの年秋有楽町のニュー東宝でゴダールの「勝手にしやがれ」に出会い、〈うちのめされる〉。それにしてもなぜ彼は、亡くなった女子学生が直観的に樺だとわかったのだろう。 (坪内祐三)

共同通信社

▲チリ地震津波、来襲(5月24日)前日チリ沖で起きたM8.5の地震による津波が東北・北海道などの太平洋岸を襲い、死者・行方不明者139人におよぶ惨事となった。写真は宮城県塩釜市街に打ち上げられた漁船。

Popperfoto/ユニフォト・プレス

◀アイヒマン逮捕(5月11日)元ナチ党員でユダヤ人虐殺の責任者だったが、アルゼンチンに潜伏中、イスラエルの情報機関に発見された。写真は防弾ガラスに囲われたイスラエルの法廷のアイヒマン。1962年絞首刑。

朝日新聞社

▼元日本兵二人、19年ぶりの帰国(5月28日)戦争終結を知らず、グアム島のジャングルでヤシの実や魚を食べて16年間も逃亡生活を続けた。写真は米軍チャーター機で東京の立川基地に到着、タラップを降りる元一等兵・皆川文蔵(下)と元軍曹・伊藤正(上)の両氏。

毎日新聞社

◀東京の浅草雷門、落成祝い(5月3日)大火で焼失して以来95年ぶりの復興で、総工費2600万円は松下電器産業社長・松下幸之助らの寄進。テープカットの後、にぎやかに練り供養が行われ、数万の見物客が集まった。

WWP

▶米原潜「トライトン」、潜航して世界一周(5月10日)2月24日にブラジル沖を出発、西まわりで地球を1周し、さらに北上してこの日、アメリカ北東海岸に浮上。この航海でアメリカは、海中からの核攻撃に一歩近づいた。

昭和35年5月

1(日)●厚生省、ケシの不正栽培防止運動を始める。
●磐梯朝日国立公園に磐梯吾妻道路が開通。
2(月)●松田文相、中教審に大学教育見直しを諮問。
3(火)●民社党・全労、非左翼の新護憲連合準備会発足。
4(水)●パラグアイへの第一回移民二七家族、出発。
5(木)●ソ連、米のU2型機を領空侵犯で撃墜と発表。
●競輪団体、平日のレース減など自粛案を決定。
6(金)●警視庁、車検証偽造団との癒着が判明した自動車販売会社一二社に厳重警告。
7(土)●横須賀市で銃砲店火薬庫爆発。二四一人負傷。
8(日)●盛岡少年刑務所から四人が脱走(9日逮捕)。
9(月)●社会党、衆院安保特別委で米軍厚木基地の「黒いスパイ機」U2型機の任務など追及。
●家永三郎ら、文部省に教科書検定改革を要求。
10(火)●育英会、大学にも特別奨学生制度適用と決定。
●横綱栃錦、引退。優勝一〇回、通算五一三勝。
11(水)●東京で世界デザイン会議開催。二七ヵ国参加。
12(木)●群馬県下の六百余商店、反安保の閉店スト。
13(金)●総評、産別組織確立などの運動方針まとめる。
14(土)●神奈川県江の島で戦後初の外車ショー開催。
15(日)●新潟県笹神村の赤痢患者二四人、農繁期に休めないと隔離病棟を抜け出し農作業を行う。
16(月)●世田谷区で七歳の少年が登校途中に誘拐される(19日、遺体で発見。雅樹ちゃん事件)。
17(火)●富士重工の初の純国産ジェット機(後の航空自衛隊T1練習機)が試験飛行。
18(水)●東京地検、全学連の唐牛委員長ら六人を起訴。
19(木)●衆院安保特別委、自民党の強行採決で混乱。警官五〇〇人が野党の抵抗排除し本会議開催。
20(金)●自民、衆院本会議で新安保条約を強行採決。
●全学連主流派、首相官邸に突入。
21(土)●中国文学者・竹内好、安保採決に抗議し都立大を辞職(30日、東京工大の鶴見俊輔も)。
22(日)●サンフランシスコで日米修好百年祭パレード。
23(月)●大江健三郎ら「若い日本の会」、岸退陣を要求。
24(火)●チリ地震津波来襲。死者・行方不明一三九人。
25(水)●諸橋轍次『大漢和辞典』全一三巻の完成祝賀会。
26(木)●国会周辺、一七万五〇〇〇人が反安保デモ。
27(金)●中村勘三郎ら六〇人、歌舞伎米国公演に出発。
28(土)●グアム島で発見された元日本兵二人が帰国。
●トキが国際保護鳥に指定される。
29(日)●吉原市でテレビ見すぎを叱られ高校生が自殺。
30(月)●大阪市教委、教委が教頭任命との規則を施行。
31(火)●政府、東電などに重油専焼発電所の着工認可。

野上透

▲出羽三山のミイラ調査(6月5日)山形県の月山・湯殿山・羽黒山に290年前から伝わるミイラを早大教授・安藤更生らが初めてレントゲンなどで解明。作家の井上靖(左)が特別参加した。

朝日新聞社

▲歌舞伎渡米、拍手喝采(6月2日)日米修好百年祭行事に参加の一行が、ニューヨークのシティーセンターで初日。「勧進帳」「壺坂霊験記」などを熱演した。写真は歓迎を受ける中村歌右衛門(中)と中村勘三郎(右)。

▼米大統領、初の沖縄訪問(6月19日)安保で騒然とする世情下、アイゼンハワー大統領は日本政府の要請で予定していた訪日を中止、沖縄訪問に変更した。写真は那覇市内でのパレード。

WWP

◀西独のハリー、100メートル10秒0(6月21日)スイスのチューリヒで開かれた陸上競技会で記録。スタートの鋭さが身上だった。夢の9秒台を誰が実現するかが次の焦点となった。

▶自衛隊、新島のミサイル試射場建設で「奇襲」上陸(6月6日)道路建設などが任務だったが、不意をつかれた反対派は試射場予定地へ通じる道路の遮断機(写真)の守備に全力を注いだ。

朝日新聞社

昭和35年6月

1(水)●社会党、衆院議員総辞職を決め委員長に一任。

2(木)●日仏学生柔道協会結成。仏の柔道定着はかる。

3(金)●大島渚監督の映画「青春残酷物語」封切。

4(土)●安保阻止六・四統一行動。五六〇万人が参加。

●伊東市で全国の市議会議員の野球大会開催。

5(日)●郡山市でCMソングのど自慢コンクール開催。

6(月)●住友金属工業、民需部門拡大のため自衛隊戦闘機F104Jの部品生産を断ると決定。

7(火)●石橋湛山ら元首相三人、岸即時退陣を勧告。

8(水)●警視庁、通り魔続出で夜間警備の強化を通達。

9(木)●東京都、明治四五年発行の仏貨公債(額面四〇〇〇万円)を三〇億円で償還、と議会報告。

10(金)●米大統領秘書ハガチー、羽田空港でデモ隊に乗用車を包囲されヘリで脱出(翌日、離日)。

11(土)●ルネ・クレマン監督、アラン・ドロン主演の映画「太陽がいっぱい」封切。

12(日)●憲法問題研究会、衆議院解散要求を声明。

13(月)●警視庁、ハガチー事件に関し四人を逮捕。

14(火)●小田原保健所、箱根の全旅館従業員の検便を行い、五〇人の赤痢菌保菌者を発見。

15(水)●全学連主流派七千余人が国会突入をはかり警官隊と衝突、樺美智子が死亡。負傷者千余人。

16(木)●閣議、米大統領に訪日延期要請(大統領同意)。

17(金)●新聞七社、安保闘争非難の「共同宣言」を発表。

18(土)●樺美智子追悼全学連総決起大会(24日国民葬)。

19(日)●安保条約、自然承認。三三万人が国会を包囲。

20(月)●下筌ダム反対派と作業員が衝突。一七人負傷。

●初のロングサイズのフィルターつきタバコ「ハイライト」発売。定価七〇円。

21(火)●牛・豚肉暴騰で五〇〇〇トンの緊急輸入決定。

22(水)●日航、深夜割引便「ムーンライト」を運航開始。

23(木)●日米、安保条約の批准書を交換。

●岸首相、臨時閣議で退陣を表明。

●NETテレビ、「ララミー牧場」放映開始。

24(金)●閣僚会議、貿易・為替自由化計画を発表。

25(土)●道路交通法公布(12月20日施行)。

●謝国権『性生活の知恵』発売(41年9月までに一五二万部)。

26(日)●稚内市で初のソ連からの輸入ニシン入札。

27(月)●動労、仙台市の全国大会で総評加入を可決。

28(火)●公衆浴場料金の値上げ認可(7月1日実施。東京は大人一六円から一七円に)。

29(水)●大蔵省、海外渡航と事務所設置の制限を緩和。

30(木)●コンゴ共和国、独立。

20世紀博物館

江戸東京たてもの園

生活のにおいがしみついた建物が持つ不思議な懐かしさ

東京・小金井市

桑原茂夫

▲港区にあった酒屋「小寺醤油店」。どっしりした構えで、調味料などを量り売りしていた。

バブル期の東京の変貌ぶりはすさまじかった。ほかに言いようがないほどに、すさまじい勢いで街の様子が変わっていった。

それまで街の一部だった建物が跡形もなく消え去り、そこにいた人々もその地を去っていった。極端な場合には、変わったというよりも、街が短期間にそっくりなくなってしまった。

そして、街に積み重ねられた記憶も、失われていった。

これは由々しいことである、という直感的な判断が働いたのだろうか、街を残すことがムリなら、せめて多くの人の記憶に残っているような建物だけでも、場所を移して残そうというプランが生まれた。すでに愛知県の「博物館明治村」や北海道の「北海道開拓の村」などで実行に移されてきたが、東京都でも「江戸東京博物館」の設立を機に、郊外の小金井公園に七万平方メートルという広い空間を得て「江戸東京たてもの園」を平成五年にオープンした。博物館分館という位置づけである。

三五棟の移築が予定されている土地に、今一八棟。この未完の博物館で、ひときわ目立つのが、大きな酒屋と立派な構えの銭湯だ。酒屋にしても銭湯にしても、かつてはその地域の人々がにぎやかに出入りしたわけだから、それなりの貫禄があって、それがいまだ衰えず、といったところなのだ。

酒屋は、日々の生活に欠かせない、味噌・醤油の類を扱っていた(それも量り売りで!)から、それこそ各家庭の台所と直結した流通センターだったし、銭湯はまぎれもなくその地のコミュニティ・センターだった。お年寄りと子どもはまだ明るいうちに顔を合わせ、夜になると、大人たちが生きた情報を交換しあったものだ。

この博物館では、建物の中にも入っていけるが、実際、たとえば銭湯に入ってみると、高い天井と大きな明かり取りの窓がある脱衣場に、籐の脱衣籠が重ねられて、まだ開店時間を迎えたばかりの銭湯のにおいがしてきそうだった。脱衣籠を一個抜き出して、裏返して軽くポンポンと床に叩いて埃などを追い出し、湯気が立ちこめる湯船の方を見ながら服を脱いでいく……。たしかにここは、都会のリラックス空間だったのだ。

しかし、その銭湯も今は風前のともしび。ついに博物館入りの時代が来たのだということを、ここで再認識させられるわけだが、かつてにぎやかだっただけに、酒屋も銭湯も、どこか寂しそうである。建物自体に貫禄はあっても、街から切り離されてしまえば、たちまち、ただの建物になってしまうのだろうか。

この博物館は未完だと記した。さて、いつか全部埋まった時、それぞれの建物は、新しい"街"のような空間の中でどんな表情を見せるのだろうか。思いきって本物の街として機能させたら面白いのに、とも思う。

●江戸東京たてもの園
東京都小金井市桜町三―七―一
都立小金井公園内
☎〇四二三―八八―三三〇〇
JR武蔵小金井駅下車、バス五分
開館時間=九時三〇分~一七時三〇分(一〇~三月は一六時三〇分まで)
休館日=月曜日(祝日の場合は翌日)

▶足立区にあった銭湯「子宝湯」の内部。大きな窓や脱衣籠が印象的。

▼3階建ての商店。いわゆる「看板建築」の典型例。

ベストセラー

セックスのイメージ一変 女性も読む『性生活の知恵』

この年のベストセラーとなった謝国権の『性生活の知恵』は、時代が大きく変わりつつあることを、個人的なレベルでも実感させる本だった。

権威ある産婦人科医が「性交態位」を、関節で折れ曲がる人形の写真を使って解説したこの本は、セックスの楽しみ方を具体的に提示することによって、暗闇で営まれるセックスというイメージを完璧に過去のものにしてしまうとともに、女性もまた、セックスを楽しむパートナーであるという、当然のことを前面に押し出した点でも画期的なもので、昭和四一年九月末までに一五二万部が売れた。

実際に、セックスをテーマにした本であるにもかかわらず、読者の三割を女性が占めたというのだから、たしかに時代は大きく変貌しつつあったのだ。少なくとも、戦後の貧しい生活からは脱却しつつあり、余裕も生まれてきていたと言っていいのだろう。

そんな時代を背景にして、北杜夫の『どくとるマンボウ航海記』が、ユーモラスな語り口と、どくとるマンボウのひょうひょうとした生き方で、たくさんのファンを獲得した。

日本を離れていく船の上から見る海の表情の豊かさや、寄港地で出会う外国人たちの善良でにぎやかな様子が、大人向けの童話のようだった。

外国の様子を見ようとする余裕も出てきていたのだろうか、『鳥葬の国』(川喜田二郎)はチベットの山奥で生活する人々の考え方や風習を紹介して、読者の度肝を抜いた。異文化への関心が高まってきた時代でもあった。

●昭和35年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『性生活の知恵』(謝国権/池田書店)
2位	『頭のよくなる本』(林髞/光文社)
3位	『どくとるマンボウ航海記』(北杜夫/中央公論社)
4位	『敦煌』(井上靖/講談社)
5位	『人生は芸術である』(御木徳近/東西五月社)
6位	『私は赤ちゃん』(松田道雄/岩波書店)
7位	『性格』(宮城音弥/岩波書店)
8位	『鳥葬の国』(川喜田二郎/光文社)
9位	『河口』(井上靖/中央公論社)
10位	『黒い樹海』(松本清張/講談社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『性生活の知恵』(池田書店、320円)

▲『どくとるマンボウ航海記』(260円)

▲『鳥葬の国』(光文社、180円)

スターと名場面

「アカシアの雨がやむとき」と松竹ヌーベルバーグ

四月、安保闘争が最も激しかった頃、西田佐知子の「アカシアの雨がやむとき」が発売された。「死んでしまいたい」などという暗いフレーズがちりばめられているためか、すぐには流行しなかったが、安保闘争に参加している学生たちには共感を持たれ、よく口ずさまれていた。そして、安保闘争がすっかり影をひそめるにつれてぐんぐんレコードの売り上げが伸び、昭和三七年に爆発的な人気を獲得するにいたるのである。

この経過は、後に、「アカシアの雨がやむとき」は、安保闘争の挫折感とともにあったと言われるゆえんでもある。

これと同じような感じで、若者の共感を呼んだ映画がある。大島渚監督の「青春残酷物語」だ。自分たちの欲望や情熱が社会の強大な力の前に敗れていく、そんな若者(川津祐介と桑野みゆき)をリアルに描いた映像は、松竹ヌーベルバーグへの期待とともに多くの若者たちの心をとらえた。

同じ年に封切られた松本清張原作、橋本忍脚本、堀川弘通監督の社会派推理映画「黒い画集・あるサラリーマンの証言」は、経済成長が進み、サラリーマン社会ががっちり構築されつつあることを、推理ドラマの進行とともに印象づける映画だった。

ほかに次のような映画が話題になっている。かっこ内はおもな出演者。

「悪い奴ほどよく眠る」(三船敏郎)「裸の島」(殿山泰司・乙羽信子)「武器なき斗い」(下元勉・渡辺美佐子)「太陽がいっぱい」(アラン・ドロン)「勝手にしやがれ」(J・P・ベルモンド)

東宝提供

▲「黒い画集・あるサラリーマンの証言」。小市民役を演じた小林桂樹(右)と、刑事役の西村晃(左)。

松竹提供

▲「青春残酷物語」。川津祐介(左)の相手役、桑野みゆき(右)の伸びやかな肢体が印象的だった。

モノ語り'60

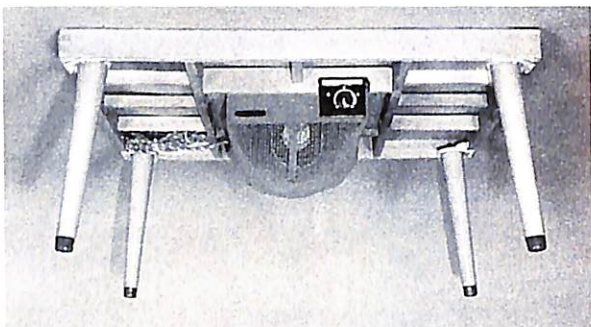
「ワンタッチカレー」「のりたま」品質も〝本格派〟のインスタント・ブーム

▲**トランジスタの電子オルガン登場**　アメリカの電子オルガンをサンプルにしながらも、基本回路に真空管を使ったアメリカ製に対してトランジスタを使用するなど、斬新な開発内容を持つ、日本初の電子オルガン「エレクトーン」が日本楽器製造(現・ヤマハ)から発売された。演奏家用(写真)が前年末に、そして一般向けがこの年の2月に出て、こちらは35万円だった。

▲**新素材の造花が大ヒット**　造花は、紙など、いろいろな素材で作られてきたが、耐久性・耐熱性、価格などで一長一短があった。そこに登場したのが、ポリエチレン製の「ホンコンフラワー」。質がよく価格が手頃とあって大ヒット。ホンコンと言っても、香港が本場というのではない。大西造花で発売した時は、ホンコンを「翻混」、つまり、ひらひらと軽やかでさまざまな色彩が混じり合ったカラフルな花として意識していたという。価格は円単位から万単位まで。

▲**すぐ溶ける固形カレー**　即席カレーの需要が年々30パーセントも伸びていた時代に、江崎グリコがヒットさせた、薄い固形タイプの即席カレー「ワンタッチカレー」。それまでは使うたびにナイフで削る必要がある固いものだったのを、薄いプレート状にして、わずか1分半で溶けるようにしたのがミソだ。6枚入り30円、10枚入り50円で発売された。

▶**インスタントはここから始まった**　元祖インスタントコーヒーが、森永製菓から発売された。「即席」には、手軽にできるが質も落ちるというニュアンスがあるので、手軽で味も本格派という意味をこめて「インスタント」というフレーズを日本で初めて採用して売り出した。焙煎コーヒーの濃厚抽出液を熱風で乾燥し、顆粒状にした製品で、36グラム瓶入り220円だった。

◀**貴重品だった卵入りのふりかけ**　ふりかけといえば、魚を主役にしてごまや海苔を用いたものが当然だった時代に、敢然と卵を主役に、〝お子様向け〟を強力に意識した「のりたま」が、丸美屋食品工業から出てヒット、ロングセラーになった。ほかのふりかけが20円の時代に20グラム入り30円という価格を設定したが、卵が高級な栄養食品というイメージを持っていたのと、実際のおいしさで消費者に受け入れられた。

▲**すぐ温かくなるコタツ**　赤外線電球を熱源にした「赤外線健康コタツ」は、松下寿電子工業が、自社で生産した美容用赤外線電球を暖房用にも使えないかという発想で開発された。従来のニクロム線方式に比べ、より使いやすく、より温かく、また赤い光による視覚効果も評判になり、この年1台4450円で6万3000台を市場に送り出し、コタツの主流タイプとなった。

▶**タバコがフィルター時代に**　「ピース」などの両切りタバコや、昔ながらの口つきタバコ(やや厚い吸い口をつけた「あさひ」など)に加えて、昭和32年からフィルターつきの「ホープ」が売り出され、この年国産初のフィルターつきロングサイズタバコの「ハイライト」が登場、一気にタバコの主要銘柄となった。和田誠のデザインも、フィルタータバコの軽快さを感じさせるものだった。日本専売公社(現・日本たばこ産業)発売で、20本入り70円。

▶この頃、不振だった松竹の期待を担って「青春残酷物語」に続き、「太陽の墓場」を撮影中の大島渚。この作品は、大阪を舞台に、追いつめられた人たちの、どうしようもない現実を厳しく描いた。 田中眞知郎

人物クローズアップ

大島 渚（二八）

松竹ヌーベルバーグの旗手「青春残酷物語」で〝爆発〟！

大島渚監督による松竹映画「青春残酷物語」が封切られたのはこの年の六月三日。連日、安保反対の国会周辺デモが行われ、まさに六〇年安保闘争の真っただ中での公開だった。続いて八月九日に「太陽の墓場」、一〇月九日に「日本の夜と霧」と相次いで三本の話題作を発表。当時二八歳の大島監督にとって、一九六〇年とは何だったのだろうか。

「僕の人生を含めて、それまで準備してきたものがいっきょに顕在化し、爆発点に達した年でした。まわりから決められた映画を作るなんて冗談じゃない、自分の撮りたい映画を作ろうと、命がけだったんです。この姿勢は今でも変わりませんが、振り返ってみれば、政治が映画の中に入ってきた激動の時代にめぐり合えて幸運だったと思います」（大島渚）

大島は昭和七年、京都市生まれ。二九年、京大法学部卒業とともに松竹大船撮影所に助監督として入社、三四年に監督となる。この異例の抜擢は、この年から映画の観客動員数が減少し始め、東映や日活の勢いにおされて業績不振におちいっていた松竹が従来の女性メロドラマ路線からの脱却をはかるためであった。大島のデビュー作「愛と希望の街」（原題「鳩を売る少年」）は同年一一月一七日に公開されたが、会社首脳部の不評から二番館以下に流された。

監督第二作「青春残酷物語」は、トリュフォーの「大人は判ってくれない」やゴダールの「勝手にしやがれ」などフランスのヌーベルバーグ（新しい波）につながるものとしてマスコミから評価され、この年、大島は日本映画監督協会新人賞（第一回）とブルーリボン賞新人賞（第一一回）を受賞。松竹はこの作品を手始めに吉田喜重の「ろくでなし」、篠田正浩の「乾いた湖」などを〝松竹ヌーベルバーグ〟作品として世に送り出した。

石堂淑朗との共同脚本による「太陽の墓場」も興行的に成功したが、安保闘争後の学生運動内部の思想的対立を扱った「日本の夜と霧」は公開四日目の一〇月一二日、浅沼社会党委員長刺殺事件の直後に突然上映が中止された。大島は政治的配慮だとして上映中止の不当を訴え、翌三六年に松竹を辞めて独立プロの創造社を設立。この事件を機に〝松竹ヌーベルバーグ〟路線は打ち切られた。

「自分の映画を撮るということが、日本映画という発想を超えて、世界の舞台へとつながっていくんです」と語る大島は、その後「白昼の通り魔」「絞死刑」「愛のコリーダ」「戦場のメリークリスマス」などを発表し、国際的な評価を得た。平成八年二月、脳出血のため倒れたが、リハビリを続けながら新作「御法度」（司馬遼太郎原作）の制作に取り組んでいる。

河西一所蔵／松竹提供

総天然色
★芸術祭参加作品★
若い世代の代表・大島渚監督が戦後青春を激しく衝く問題作！
若者よ、日本の友よ
お聞きなさい！
流れる歌声に
すべてをぶつけた
青春の魂の叫びを！
日本の夜と霧
桑野みゆき・津川雅彦
渡辺文雄・小山明子・芥川比呂志
松竹映画

▲全編、ディスカッション・ドラマの問題作、「日本の夜と霧」ポスター。

決定的瞬間

少年は脇差しを構えた！ 最後のフィルムが写した浅沼稲次郎委員長の刺殺

黒いコウモリのような人の塊が舞台に向かって右手から駆け上がり、浅沼稲次郎社会党委員長（六一）に向かって突進した。人影は委員長に激突。委員長は、はっとして左手で左の脇腹をおさえた。二人の体は演壇から左に移動。犯人は三六チセンの脇差しを構えなおして再び刺そうとする。フラッシュの閃光が走った。毎日新聞社カメラマンの長尾靖（三〇、現在フリー）のカメラがこの、まさに決定的瞬間をとらえる。

「私が立っていた位置からは演壇が邪魔で刺された瞬間は見えなかった。しかし次の一瞬、もつれ合う二人が視野の中に入り、最後の一枚しか残っていなかったフィルムのシャッターを切ったのです」

この一枚は脇差しを構える学生服の少年と、眼鏡が鼻まで吹き飛び両手で体を防御しながら不自然な姿で立つ浅沼委員長の一瞬の姿を写し出した。

昭和三五年一〇月一二日、東京・日比谷公会堂で三党首による立会演説会が開かれた時のことである。日米安保条約改定をめぐる騒然たる政治の季節も終わり、国民の審判を仰ぐ総選挙を間近に控えていた。

午後二時四五分。二五〇〇の座席はほぼ満席。演壇では民主社会党の西尾末広委員長の演説が終わり、二番手の浅沼委員長の演説が始まったところだ。

大きな体、日焼けした顔に汗を浮かべ、声を張り上げる浅沼委員長は「人間機関車」と呼ばれていた。会場には野次を激しくあびせる一団がいた。「中共・ソ連の手下引っこめ！」。彼らは赤尾敏を党首とする大日本愛国党の一団で、明らかに演説を妨害する目的でこの会場に陣どっている。委員長は野次と喧騒の中で演説を続けていたが、一〇分ほど経った時、カーキ色の作業服を着た青年が壇上によじ登りビラをまいた。同時に二階席からもビラがまかれた。正常な雰囲気ではない。次の演説を行う池田勇人首相が壇上に上がって控えの席に座る。三時四分、司会役のNHK小林利光アナウンサーが静かに演説を聞くように要請、再び委員長が演説を始めた時に事件は起きた。

この立会演説会の模様は一部始終、NHKテレビで放映され、国民に大きな衝撃を与えた。

犯人の右翼少年（全アジア反共青年連盟員）、一七歳の山口二矢は、池田首相を護衛するボディーガードに取りおさえられ、浅沼委員長はすぐに会場の外にいたパトカーに運ばれるが、腹動脈切断のためすでに死亡していた。まさに〝即死〟であった。現場にいあわせた記者の一人は、演壇の床に血は流れていず、その代わりにおびただしい失禁の跡があったと語っている。

▲この写真は、翌10月13日の「毎日新聞」一面を飾るとともに、UPIを経て、世界中に配信され、わが国で初めてのピュリッツァー賞写真部門の受賞作品となった。長尾靖　毎日新聞社

美の出会い

美智子妃のための台所も「簡素で清楚」「家庭的」な東宮御所が完成

四月二七日、東宮御所の落成式が行われた。総面積は三八六四平方メートル、そのうち、皇太子（二六）と美智子妃（二五）がお住まいになる奥私室は一四五〇平方メートル。総工費二億二三〇〇万円だった。

当時、住宅公団が建設を進めていた二DKの団地でさえも容易に入れなかった庶民にとって、皇太子ご夫妻のご成婚から東宮御所建設までの道のりは、憧れと夢を抱かせてくれ、日本の未来に明るさを予感させてくれたのだった。

皇太子と正田美智子さんの婚約を機に、東宮御所の造営が決まったのが昭和三三年。同年一二月六日に東京工業大学教授・谷口吉郎の設計図ができあがり、宮内庁から発表された。各紙とも、皇太子の「家族が一緒に住めるように」という希望を前面に打ち出した記事を掲載した。

「これが皇太子の新居――親子水入らずの間取り」（「毎日新聞」）

「家庭的ふんいき盛る」（「東京新聞」）

「皇太子さまの新居――ちゃんと育児室も」（「日本経済新聞」）

建設地は港区の緑豊かな赤坂御用地。江戸時代には紀州家の「お花御殿」があった場所である。明治時代になって、ベルサイユ宮殿を模した洋風建築が建てられ、今も迎賓館として残されているが、昭和二〇年五月の大空襲で木造御殿などの一角は廃墟と化した。谷口吉郎はこの歴史ある場所に、昭和の新しい東宮御所にふさわしい建物を建てようと思いめぐらした。

「形式による豪華な印象よりも、皇太子の私的な住まいとして、人間的な内容が大切である。日本の風土と環境に適合したたたずまいの中に、ゆかしく住まわれ、人びとと親しく会合される場としての構えこそ好ましいのではなかろうか」（『東宮御所』毎日新聞社刊）と考えた谷口は、「簡素で清楚な御所」の実現を念願したのである。

東宮御所は、皇太子ご夫妻の私的な住居としての奥私室、外国の使節を迎えるためなどに使われる公的な表公室、事務を行うための事務棟の三つの部分からなる。日本の洋風建築は、左右対称の様式が定着していたが、谷口吉郎は本来の日本美である非対称の意匠を取り入れた。構造は耐震鉄筋コンクリート造り、銅板ぶき傾斜屋根。外壁は白セメントの吹きつけ、建具は鉄製ペンキ仕上げ。御所としては質素とも言えるが、清楚で気品あふれる建物となった。

東宮御所の建築で特筆されるのは、素材として日本各地の特産品が使われたことである。玄関には宮城産の黒色天然スレート、室内壁には群馬の多胡石と山口の白大理石。庭園には茨城の稲田御影、福島の黒御影と浮金石、岡山の万成石、埼玉の秩父石などが使われた。室内の調度では、石川の輪島塗円卓、椅子布に京都の西陣織、テーブルには青森の津軽塗など、これらが日本的な美と親しみをもたらしている。そして何より目をみはるのは、建築から調度の制作まで、各所で担当した職人たちの技術の粋を集め、精魂かたむけた出来映えである。

表公室の食堂（日月の間）には東山魁夷の大障壁画「日月四季図」、控え所に吉岡堅二の「飛翔図」が飾られた。ともに両画家の代表作で、御所にふさわしい優雅な雰囲気を醸し出している。

内装の色彩などは、皇太子ご夫妻と谷口吉郎が相談して決めたという。皇太子は、工事中にもしばしば現場を訪れ、時には注文も出された。奥私室の食堂の隣に小さな台所が設けられ、美智子妃の手料理も楽しめるようになっている。

皇太子ご夫妻がこの新居に移られたのは昭和三五年六月のこと。お二人とも大変お気にめされたそうである。

宮内庁提供（3点とも）

▲表公室の日月の間。床は桜の寄せ木張り、天井は切り妻。壁面には東山魁夷の「日月四季図」がかけられている。公式の行事、レセプション、接見の間として使用されている。

▼表公室の外観。前の庭園には皇太子のお好きな白樺が植えられた。

▲青石の池の橋の上で、くつろがれる皇太子ご夫妻。

「現場」を歩く 小国町

山林王が国家に抵抗した「蜂の巣城」落城の跡

山本徹美

平成八年一二月二四日、私は九州最大の河川、筑後川の上流に築かれた下筌ダムを訪れた。この日、ダム周辺は騒がしかった。ダムに架かる橋から投身自殺したものがいて、捜索活動が行われていたためだ。入水者はこれで一四人目。彼らが身投げした湖は当初、下筌ダム湖と呼ばれていたが、公募によって、「蜂の巣湖」と改められた。その由来はダムの右岸直下に沈む「蜂の巣城」による。

蜂の巣城といっても戦国時代の城ではない。山の斜面に鉄条網を張りめぐらして建てた二十数棟の小屋で、ダム建設に反対する地元住民などがたてこもった。

そのリーダーは、室原知幸氏。室原氏は早大卒業後、町議、町の公安委員長などを歴任した名士にして山林王である。

昭和三五年四月一九日、建設省九州地方建設局長が建設大臣に申請していた下筌ダムの事業認定が、公示された。これを受け、五月二八日、室原氏らは東京地裁に「事業認定無効確認」の訴訟を起こす。

▲下筌ダム。「蜂の巣城」はこの下に沈んでいる。有効貯水量5200万立方メートル。

闘争に私財を投入

ダム建設には多かれ少なかれ反対運動がつきものだ。下筌ダムの場合、予備調査の段階で建設局側が無断で私有地の山林に入り、樹木を伐採したり耕作物を踏み倒すなどして、測量を行った。それが地域住民から反感をかい、交渉がもつれた一因と言われた。ほかに補償金を釣り上げるのがねらいとのうがった見方をする声もあった。当時、一現場員として派遣されていた片村靖宏氏（現・下筌ダム管理支所長）は、首をかしげる。

「無断伐採の件は話し合いで、その四年前に解決ずみでした。室原さんは大金持ちだし、補償金にこだわるようなタイプではない。なぜ、反対されるのか若輩の私には理解できませんでした」

その事情を長男の室原基樹氏（大分県日田市議・保守系無所属）が明かす。

「父の関心は法解釈にあった。憲法で保障された個人の権利がどこまで国家のそれに対抗しうるのか。今でこそ知る権利が認められてきましたが、あの頃はそれすらないがしろにされていた」

ダムの必要性は知幸氏も認めていた。昭和二八年六月の筑後川大氾濫で一四七人の犠牲者が出て、上流にダムを造るという問題が浮上した。が、室原氏らの住む熊本県小国町でなくてはならない明確な理由がどうも見あたらない。計画書の提出を求めても、いっこうに出てこない。そこに異を唱えた。

意外にも彼の理解者は東京地裁の石田哲一裁判長だった。数日がかりで一人してダム予定地を視察したことも。石田裁判長は、「室原さんの国家に対する抵抗を評価しています」としながらも、公共の福祉を理由に昭和三八年九月、訴えを棄却。翌年、蜂の巣城は強制撤去される。

「一三年間にわたる闘争で、父は一億一〇〇〇万円を投入した。財産は失ったけど、意義はあった。むしろ私には父の生き方が遺産です。父を誇りに思います」

室原氏の墓碑は下筌ダムのアーチと対峙する山腹に建っている。

朝日新聞社

▲6月20日、建設準備作業が開始され、反対住民と作業員が衝突した。右上方が「蜂の巣城」。

『日本の黒い霧』はじめベストセラー連発 情報化時代の到来を象徴した〝社会派推理〟松本清張ブーム！

▲松本清張は明治42年生まれ。印刷工などを経て、昭和17年朝日新聞社入社。26年「西郷札」が懸賞小説に入選。31年から文筆活動に専念。

この年一月、松本清張は「文藝春秋」に「日本の黒い霧」の連載を開始した。このシリーズは、下山事件、「もく星号」の遭難など、戦後占領政治下で起こった不可解な事件の真相に迫ったもの。『点と線』などのベストセラー作家が、なぜこうしたテーマに挑んだのか。

戦後史の闇の部分にメス『日本の黒い霧』で新境地

「藤井さん、時間がない。急ぐんだ」

いつもこんな調子で担当編集者を呼び出す。相手が取材中であろうが、会議中であろうがおかまいなしだった。不惑をすぎてのデビューの焦りが、そうさせたのだろうか。

昭和三五年、松本清張（五〇）は「文藝春秋」誌上で、終戦直後から頻発した「下山事件」や「帝銀事件」など、一二の不可解な事件を追って「日本の黒い霧」を連載し始めた。

その仕事ぶりは、「まるで何かに取りつかれたかのようにすさまじいものだった」と約三〇年にわたって清張の編集担当だった藤井康栄氏は述懐する。

「日本の黒い霧」で清張が取り上げた事件は、どれも、多くの謎に包まれたまま、真相は闇に葬られたものばかりだった。ジャーナリストでさえ手を出しあぐねていた占領政治下におけるGHQの暗躍。彼らが繰り広げた工作をえぐり出し、冷戦前夜の国際諜報戦の下で翻弄される日本の戦後社会を描き出したこの作品の反響は大きく、単行本にまとめられるやベストセラー上位に顔を出し（文庫本上下巻は計七〇万部を突破）、「黒い霧」は、不正や謀略を意味する流行語となった。

清張は、この三五年から翌年にかけて『日本の黒い霧』のほかに『わるいやつら』『砂の器』『球形の荒野』など、発表するたびにベストセラーとなる作品を連発した。そして、水上勉、黒岩重吾、梶山季之といった作家たちに大きな影響を与え、政治や企業にからんだ犯罪を題材にする"社会派推理小説ブーム"を引き起こしたのである。

文芸評論家の尾崎秀樹氏は、「清張は内外の政治、企業抗争、謀略などの実像を、緻密な取材によって情報小説に仕立てた。正史の裏面にある深い闇を、初めて白日のもとに引きずり出した作品でもあった。そういう意味で情報化時代に先鞭をつけた作家とも言えます」と言う。

下積み人生で培われた強靭な精神力と粘り

みずから「既成の枠からはみ出てもかまわない。効果的に読者に伝えられるなら、ジャンルなどどうでもいい」と語る表現方法は、単にエンターテインメントとしての推理小説の域にとどまらなかった。たとえば、『日本の黒い霧』で取り上げた「下山国鉄総裁謀殺論」だ。

昭和二四年、国鉄職員三万七〇〇〇人の首切りを発表した国鉄総裁・下山定則が、その直後に轢死体で発見された。他殺か自殺か——。さまざまな憶測が飛びかったいわゆる「下山事件」は、結果的に当時各地で頻発していた労働争議をおさえる役割をはたすことになったのだが、この事件についても、精力的な取材で入手した極秘資料を駆使し、「事件は朝鮮戦争を予測していたGHQの謀略」と結論づけた。

後に冷戦構造の中で語られた"北の脅威"を、すでに米国がこの時点で懸念していたことを看破してみせたのである。

しかし、ほどなくして、その系譜を引き継ぐはずだった"社会派推理作家"たち——黒岩重吾や梶山季之は現代小説や風俗小説に作風を変え、それぞれ推理小説から退いていった。

清張は、四五歳の時、『或る「小倉日記伝」』で第二八回芥川賞を受賞するまで、人生の半分を、学歴偏重主義の大新聞社で広告デザイナーとしてすごしてきた。みせかけの秩序への不信感を募らせながら下積みの人生に耐えてきた、生活者としての強靭な精神力と粘りがあったからこそ、「取りつかれたように」さまざまな疑問に立ちむかえたのだろう。

「早くからもてはやされていた人は世の中がわかっていない。作品を大きくする力が弱いんだ。だからゆきづまるんだよ」

清張は若くして世に出た作家たちを、こう評していたという。

戦後の混乱期から高度成長へとひた走る、矛盾多き日本という時代の中で、松本清張という個人の強力なパーソナリティと才能があってこそ生まれた"社会派推理小説ブーム"だったのだ。

「時間がない。急ぐんだ」が口癖だった社会派推理の巨匠、清張は、八二歳でこの世を去るまでに六二〇編もの推理小説やノンフィクションを残した。その原稿量は、四〇〇字詰めにして一二〇万枚以上にもおよぶ。

小説、人生、そのすべてからほとばしった清張の迫力は、"戦後"という混乱した時代そのものなのかもしれない——。

▲松本清張『砂の器』。光文社、昭和36年7月5日刊。

▲松本清張『眼の壁』。光文社、昭和33年2月15日刊。

▲松本清張『日本の黒い霧』。文藝春秋新社、昭和35年5月10日刊。

▲松本清張『黒い画集』。光文社、昭和34年4月30日刊。

▲松本清張『霧の旗』。中央公論社、昭和36年3月5日刊。

▲松本清張『黄色い風土』。光文社、昭和36年5月30日刊。

◀黒岩重吾、大正一三年生まれ。「背徳のメス」で直木賞受賞。最近は古代史を題材にした作品も。

▲黒岩重吾『背徳のメス』。中央公論社、昭和35年11月刊。

▲高木彬光『白昼の死角』。光文社、昭和35年6月刊。

▲水上勉『海の牙』。河出書房新社、昭和35年4月刊。

▼高木彬光。大正9年生まれ。昭和25年「能面殺人事件」で探偵作家クラブ賞受賞。

▲松本清張が切り開いた推理小説は、従来の探偵小説とは異なり、身近な題材を取り上げたリアリティに富んだもので、後進の作家に大きな影響を与えた。写真右は戸川昌子。

▼梶山季之、昭和5年生まれ。ルポライターなどを経て、昭和37年産業スパイ小説『黒の試走車』で流行作家に。

フォト＋日録で再現する366日

毎日新聞社

◀**三池争議、戦闘回避（7月20日）** はてしない流血の闘争に対し、新任の労相・石田博英が事態収拾に乗り出し、組合員と警官隊合わせて数万人の激突は回避された。写真は「戦闘訓練」を行う組合員。

▶**ポラリス・ミサイル実用化へ（7月20日）** 米海軍が原潜「ジョージ・ワシントン号」からの新型核ミサイル発射実験に成功。主力水中発射ミサイルで、アメリカの核報復力は格段に強化された。

WWP

読売新聞社

▼**カリプソの王様、ベラフォンテ来日（7月10日）** 東京と大阪で計1週間公演。西インド諸島に伝わる民謡カリプソなどをもとにしたヒット曲「バナナ・ボート・ソング」「さらばジャマイカ」「マチルダ」などを熱唱した。

▲**雅樹ちゃん事件の本山茂久を逮捕（7月17日）** 東京で尾関雅樹ちゃん（7）を誘拐し殺害、逃亡していたが、大阪で発見された。写真は18日、護送中に記者団の質問ぜめにあう本山。

毎日新聞社

▲**岸首相刺される（7月14日）** 首相官邸での池田自民党総裁就任祝賀会に出席中、右翼関係者に襲われた。大腿部に6ヵ所の刺傷で全治2週間。犯人は「いい加減な政治を反省させるため」と自供。

◀**血液を売る人々（7月）** 大阪市の日本ブラッド・バンク（後のミドリ十字）には、毎朝9時頃になると売血者の列ができた。200ccで400～600円。昭和44年に供血が献血に一本化されるまで続いた。

朝日新聞社

昭和35年7月

1（金）●石川島重工業と播磨造船所、合併契約に調印。●国鉄運賃法改正で、三等車が廃止される。

2（土）●昭和三四年のGNP、前年比実質一四・六％増で戦後最高と判明。

3（日）●外務省、『外交青書』発表。アジア重視を強調。

4（月）●全学連分裂。主流・反主流派が独自大会開催。

5（火）●大湊田名部市議会、八月一日から「むつ市」に改称と決定。全国初のかな書き市名。

6（水）●新独立国コンゴで暴動。以後各地に広がる。

7（木）●黒澤明、東京五輪記録映画の制作を承諾。

8（金）●前日来、中国地方に集中豪雨。二一人死亡。

9（土）●ソ連、米の干渉にはキューバ徹底支援と表明。

10（日）●奈良県の修験道の霊山・大峰山竜泉寺、一三〇〇年間にわたる「女人禁制」を解く。

11（月）●東大、カッパー8型ロケット打ち上げに成功。

12（火）●建設省『建設白書』。下水道などは依然低水準。

13（水）●北陸から東北に大雨。新潟で四〇〇〇戸浸水。

14（木）●自民党総裁選で池田勇人が石井光次郎を破る。

15（金）●岸内閣、総辞職。

16（土）●ソ連、中国派遣専門家を一斉引き上げと通告。

17（日）●布施市で「雅樹ちゃん事件」の容疑者逮捕。

18（月）●経企庁『経済白書』。機械工業が経済を主導。

19（火）●第一次池田勇人内閣発足。厚相に初の女性大臣・中山マサが就任。

20（水）●三池争議で中労委、労使双方に対し中労委への白紙委任による斡旋を提示。労組側、受諾。●最高裁、公安条例の集会・デモ許可制に合憲。

21（木）●英連邦セイロンで世界初の女性首相が誕生。

22（金）●三池鉱で全学連と警官隊衝突。二七〇人負傷。

23（土）●中国とキューバ、バーター貿易協定に調印。

24（日）●大津市の比叡山ドライブウエーで観光バスが谷に転落。二八人死亡、一八人重軽傷。

25（月）●身体障害者雇用促進法公布施行。

26（火）●東京・山谷で少年連行めぐり住民・警官が衝突。

27（水）●原子力委員会、長期基本計画の大綱を決定。

28（木）●通産省、一般炭五五万トンの緊急輸入を決定。

29（金）●山梨県忍野村の農民三〇〇人、北富士演習場での演習中止を求め着弾地へ入る。

30（土）●東京・浅草橋で、仕出し弁当により食中毒。この日夕方までに患者六二八人。

31（日）●東映アニメ「少年猿飛佐助」、ベネチア国際映画祭児童映画部門で聖マルコ獅子賞を受賞。●コンゴ国立公園協会が、マウンテンゴリラ絶滅の危機を世界に訴え、と新聞に。

朝日新聞社

WWP

▲**ソ連軍事法廷、「黒いスパイ機」の操縦士に有罪（8月19日）** 黒いスパイ機はU2というアメリカの偵察機。5月1日にウラル上空で撃墜され、パワーズ操縦士が逮捕された。雪どけムードの米ソ関係が、急転、凍りついた。

▶**弥勒菩薩の指ポキリ（8月18日）** 京都・広隆寺の国宝、弥勒菩薩像の左手の薬指が第一関節から折れた。第一発見者をよそおっていた京大生が、頬ずりして友人に自慢するつもりだったと自供。9月12日、修復された。

証言・あの日この日

浮谷東次郎（18）

浮谷和栄提供

7月27日（水） 〈中には、車をとめてうまい工合に話しかければ……というように思える女もいた。だが、出来なかった。その理由は、自分が自分でみっともなくなったのである。「おす、乗らないかー」こんなことが、大の男が言えるというのか。おれはまだ高校３年、しかも下町ながら名門高校の……〉（浮谷東次郎『オートバイと初恋と』）

この年、江の島が大ブームとなり、7月10日の日曜日は30万人もの人出を記録した。後に23歳で鈴鹿に散る伝説のレーサー浮谷東次郎は両国高校の３年生。東大進学とアメリカ留学をめざす彼は、この夏は勉強に集中しなければならない。しかし彼の頭の中はバイクのことと異性のことでいっぱいだ。そんなある夜、ラジオをつけると江の島が舞台の「エロ話」を放送していた。さっそく彼は深夜、バイクにまたがり江の島に向かう。（坪内祐三）

▼**国鉄旧高松駅舎全焼（8月20日）** 隣接の四国支社のほか、民家42戸が類焼した。旧高松駅は明治43年完成の重厚な北欧風建物で、前年の新駅舎完成により閉鎖、鉄道記念物にする計画があった。

読売新聞社

三越提供

▲**国産５社がカラーテレビ発表会（8月2日）** NHK・NHK教育・日本テレビ・ラジオ東京テレビ（現・TBS）・読売テレビ・朝日放送が9月10日からカラー本放送を開始するため、東京・銀座の三越百貨店で開催。21型で50万～54万円、17型で42万円だった。

昭和35年8月

1（月）●ラジオのニッポン放送、この日から一日に二回、民放で初めて「君が代」を放送。

2（火）●徳山曹達がポリプロピレン国産化、と新聞に。

3（水）●石橋湛山、日ソ協会会長就任を受諾。

4（木）●東京・板橋で仕出し弁当から食中毒発生（都内の食中毒はこの年累計で二三五九人に）。

5（金）●米、横須賀で修理中の核ミサイル潜水艦「グレーバック」に核装備なし、と外務省に回答。

6（土）●東京地検、樺美智子は胸部圧迫による窒息死で傷害致死の疑いなしと不起訴処分を決定。

7（日）●池田首相、減税・社会保障・公共投資を新政策の三本柱にすることを表明。

8（月）●戦後初の海外派遣日赤医療班、コンゴへ出発。

9（火）●ラオスで無血クーデター（16日、プーマ中立政府成立。9月10日右派蜂起、内戦本格化）。

10（水）●日本トラック協会、運転手の適性検査など「神風トラック」追放の具体案を決定。

11（木）●NHKのテレビ受信契約が五〇〇万件を突破。●森永、国産初のインスタントコーヒーを発売。

12（金）●日航ジェット定期便の一番機、ホノルル経由サンフランシスコ行きが羽田を出発。●韓国大統領に民主党の尹潽善が選出される。

13（土）●一宮市の勤労協会、女子紡績工員引き抜き防止のため帰省列車に監視の職員を乗せる。

14（日）●東京都東村山浄水場が完成し、通水試験実施。

15（月）●荒木文相、日教組の会見申し入れを拒否。

16（火）●モスクワ日本産業見本市開幕（～9月5日）。

17（水）●経済閣僚懇談会、大豆輸入自由化方針を決定。

18（木）●京大生が広隆寺の国宝弥勒菩薩像の指を折る。

19（金）●米軍立川基地、日本人二八四人を解雇と通告。

20（土）●国鉄、特急「こだま」「つばめ」に公衆電話設置。

21（日）●専売公社が外国タバコ輸入拡大へ、と新聞に。●夏の全国高校野球大会、法政二高が優勝。

22（月）●国際五輪委員会、柔道を正式種目に決定。

23（火）●北海道で小児麻痺が流行し、患者八〇三人に。

24（水）●日銀、公定歩合を一厘引き下げ、一銭九厘に。

25（木）●第一七回五輪ローマ大会開幕（～9月11日）。

26（金）●日本・北朝鮮両赤十字、帰還協定延長協議へ。

27（土）●中国の周恩来首相、日中貿易三原則を提示。

28（日）●厚生省が二二の国民休暇村を計画、と新聞に。

29（月）●台風一六号により死者・行方不明六一人。

30（火）●島原―雲仙有料道路の開通式挙行。

31（水）●大蔵省と日銀、外国為替銀行の現地貸付枠と外銀からの無担保借り入れ規制を撤廃。

WWP

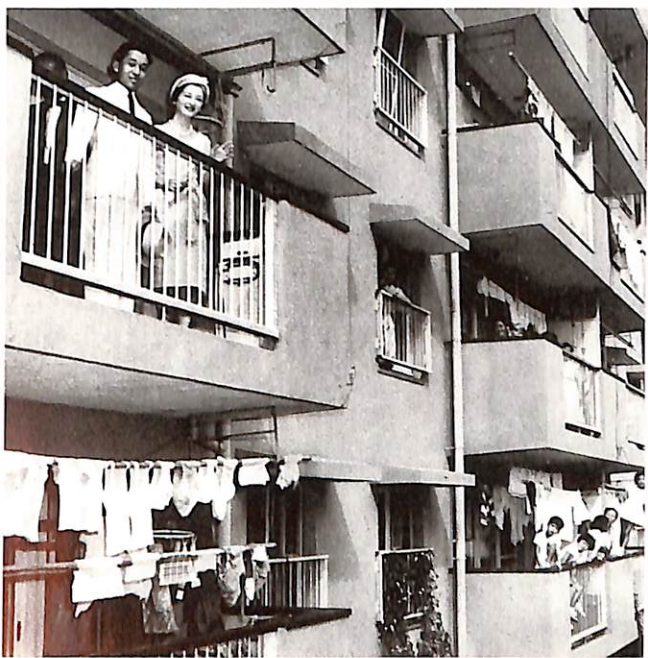
▶フルシチョフ、カストロを突然訪問(9月20日)国連総会に出席中のソ連とキューバの首相が、米・キューバ関係が緊張を強める中、約40分にわたって予定外の会談を行った。

朝日新聞社

▶「永仁の壺」事件(9月26日)真贋論争で話題の壺が名古屋市のデパートで公開された。永仁年間の作として重文に指定されたが、贋作とする研究者が現れ、23日、陶芸家の加藤唐九郎が自分の作と言明していた。

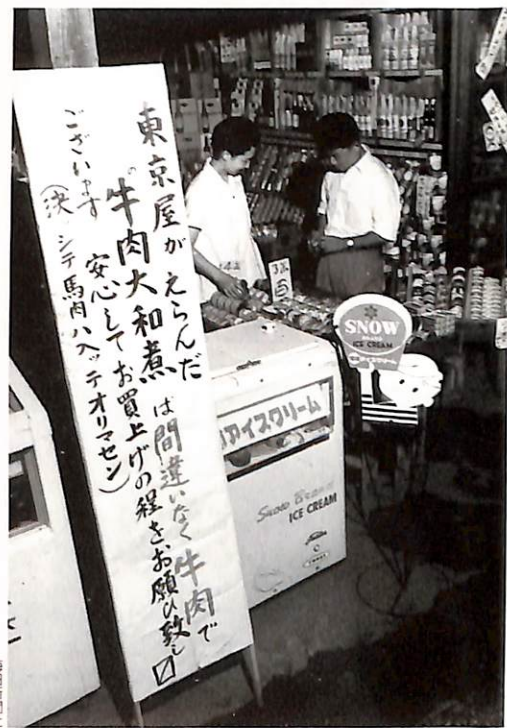
WWP

▲政府代表団、戦後初の訪韓(9月6日)小坂善太郎外相らは尹大統領、張国務総理ら韓国政府首脳の歓迎を受けたが、一般市民の表情は固く、「10億ドル以上の賠償金を支払え」のプラカードを持ったデモ隊に迎えられた。

WWP

◀裸足のアベベ、金メダル(9月10日)ローマ五輪最終日のマラソンで、終始先頭集団にいたエチオピアのアベベは40キロ付近でスパート、陽の落ちたアッピア街道を力走し、2時間15分16秒2の世界最高記録で優勝した。

朝日新聞社

▲皇太子夫妻、団地を見学(9月6日)訪米を前にして、東京・田無町のひばりが丘団地などを訪れ、会社員の妻から団地での暮らしぶりや住宅事情などを聞かれた。道路も窓もベランダも見物人でいっぱいになった。

朝日新聞社

▲牛肉缶詰、中身は鯨か馬(9月7日)牛の絵のラベルがある缶詰を牛缶と思って買った消費者が、メーカーを詐欺罪で告訴した。その後の調べで、全部牛肉使用の「牛缶」はごく一部と判明。

朝日新聞社

▼大洋、「三原魔術」で初の日本一(10月15日)2年連続セリーグ最下位の大洋が、日本シリーズで大毎に4連勝して優勝。写真は胴上げされる三原脩監督で、就任1年目の快挙だった。

朝日新聞社

▶栃錦、最後の土俵入り(10月1日)引退相撲は本場所を上回る大観衆。22年間の土俵生活に別れを告げ、年寄・春日野を襲名した。太刀持ち・若乃花、露払い・朝潮。

▶「お座敷列車」大人気(10月6日)国鉄盛岡工場で客車を改造した。26畳の日本間で、入り口にはふすま、窓には障子がはめこまれた、定員80人の団体専用車両。

▼ピカソ、マチス、シャガールを一堂に(10月15日)東京・上野の国立西洋美術館で20世紀フランス美術展が始まった。絵画、陶器、タピスリーなど、約300点を展示。

読売新聞社

WWP

▼キング牧師、白人専用食堂に座りこんで逮捕(10月19日)人種差別に反対し、非暴力直接行動を唱えて支持を集めた。写真は座りこみの前にデモ行進をするキング牧師(中央)。

昭和35年9月

1(木)●高知県教委、勤評未提出の校長二一人を降格。●石炭鉱業合理化事業団発足。融資業務など。

2(金)●荻野早大教授が古本屋で購入した古文書から鎌倉初期の仏師運慶の筆跡を発見、と新聞に。

3(土)●清水幾太郎ら、現代思想研究会を結成。

4(日)●北海道足寄町で誘拐された少女、遺体で発見。

5(月)●自民党、一〇年でGNP倍増の新政策を発表。

6(火)●小坂外相、政府代表として戦後初の韓国公式訪問。新関係樹立をうたった共同声明発表。

7(水)●ローマ五輪で日本の体操男子が団体優勝。

8(木)●外務省で第一回日米安保協議委員会開催。

9(金)●文化財保護委、電源開発か自然保護かで揺れる、尾瀬沼の調査を開始(~12日)。

10(土)●NHKなど六局がカラーテレビの本放送開始。

11(日)●郵政相、三六年度目標は無電話村解消と語る。

12(月)●俳優座など訪中新劇団七一人、羽田を出発。

13(火)●西武競輪で八百長騒ぎ。四〇〇〇人が投石。

14(水)●産油五ヵ国、石油輸出国機構(OPEC)結成。

15(木)●厚生省、ダニ混入唐がらし続出で、発見次第販売停止処分にと、各都道府県に通達。●黒澤明監督、三船敏郎主演の映画「悪い奴ほどよく眠る」封切。黒澤プロ第一回作品。

16(金)●厚生省、理容業など八業種の団体に、協定による一斉値上げは独禁法違反と警告。

17(土)●東京武蔵野病院で赤痢発生。入院患者ら発病。

18(日)●フジテレビ、「ピンクムードショー」放映開始。

19(月)●ソ連のフルシチョフ首相、米国を訪問。

20(火)●福岡県豊州炭鉱で出水事故。六七人死亡。●将棋の大山康晴、王位を獲得し四冠独占。

21(水)●共産党の影響調査のため会計簿を調べられた宇部母の会が宇部署に抗議、同署は謝罪。

22(木)●皇太子夫妻、日米修好百年記念の訪米に出発。●熊本城天守閣が再建され、落成式挙行。

23(金)●陶芸家・加藤唐九郎、鎌倉期のものとされた重文「永仁の壺」は自分が作った贋作と言明。

24(土)●谷川岳で宙吊り遺体収容のため、自衛隊員がザイルを銃撃して遺体を落下させ収容。

25(日)●新島で試射場反対派ピケを機動隊が実力排除。

26(月)●小児麻痺ワクチンを米ソから緊急輸入と決定。

27(火)●最高裁、農林省公金詐取の多久島事件(31年6月)の上告棄却。元事務官らの懲役刑確定。

28(水)●東京地裁、松下訴訟で「絞首刑は合憲」と判示。

29(木)●参院議場で第四九回列国議会同盟会議開催。

30(金)●閣議、経企庁の消費者物価対策を了承。

昭和35年10月

1(土)●拠出制国民年金の加入請求受付開始。●第九回国勢調査。人口九三四一万八五〇一人。

2(日)●大洋、セリーグで初優勝(15日、日本一に)。●ラジオ東京テレビ、「サンセット77」放映開始。

3(月)●農林省、本年度米は空前の豊作と作柄発表。

4(火)●兵庫県警、厚生省麻薬取締官を収賄で逮捕。

5(水)●東京五輪組織委、トトカルチョ導入を断念。

6(木)●東武鉄道、新ロマンスカーの完成祝賀会。

7(金)●日本女性だけの登山隊、ヒマラヤのデオ・チバ峰に登頂。アジア女性初のヒマラヤ登頂。

8(土)●ベネルクス三国と初の通商協定に調印。

9(日)●東京で国際癌学会議開催(~15日)。

10(月)●南極越冬隊員が行方不明(43年2月遺体発見)。

11(火)●東京で「高校増設・すし詰め解消都民大会」。

12(水)●浅沼稲次郎社会党委員長、刺殺される。●松竹、映画「日本の夜と霧」上映中止を指令。

13(木)●政府、浅沼刺殺事件で山崎自治相を更迭。

14(金)●政府、公務員給与の一二・四%引き上げ決定。

15(土)●内科学会でスモン病症例が初めて報告される。

16(日)●声楽の岡村喬生とピアノの三浦みどり、伊ビオッティ国際音楽コンクールで金賞を受賞。

17(月)●専売公社、輸入自由化の一環として、外国タバコの販売量を大幅にふやすと発表。

18(火)●閣議、東京五輪の準備対策協議会設置を決定。

19(水)●東京地裁、「朝日訴訟」で現行の生活保護水準は憲法二五条に反し違憲と判決。

20(木)●中央森林審議会、森林基本五ヵ年計画を作成。

21(金)●文化財保護委、重文など二七点の再調査決定。

22(土)●国際自由労連会長来日、総評に加盟を要請。●チャップリンの映画「チャップリンの独裁者」日本で二〇年ぶりに封切。

23(日)●東京・丸の内にあるコンドル設計の明治建築、化学工業会館取り壊しに、と新聞に。

24(月)●大阪市が議員報酬引き上げ、全国最高に。

25(火)●横田喜三郎、最高裁判所長官に就任。●トヨタ自動車、新型大衆車を発表し、車名を公募。一二月にパブリカと決定(翌年発売)。

26(水)●厚生省、病院スト多発で改善指導を都に警告。

27(木)●日朝、在日朝鮮人帰還協定の一年延長で合意。

28(金)●集団就職の若者が組織する「若い根っこの会」、川越市に建設する「根っこの家」の地鎮祭。

29(土)●大学進学の男女差ほぼ解消と都教育庁調査。

30(日)●北海道白糠町の鉱山でガス爆発。一七人死亡。

31(月)●熱海峠で伊豆スカイラインの起工式挙行。

読売新聞社

ユニフォト・プレス

◀米大統領選、ケネディ接戦を制す(11月8日)史上最年少の大統領が誕生。対立候補はニクソンで、選挙人獲得では303対219だったが、一般投票では0.1パーセントという僅差だった。写真は遊説中のケネディ。

▲富士山で大量遭難(11月19日)8~9合目付近で幅300メートルの雪崩が発生し、冬山訓練中の早大生ら五十余人が巻きこまれた。翌日、300人の捜索隊が出動したが、死者・行方不明者11人という惨事となった。

◀▼刃物追放運動始まる(11月28日)尼崎市で、青少年愛護条例に基づき「青少年には刃物は売りません」のポスターが刃物店店頭に貼り出された。この運動は東京、新潟など各地で行われた。下は堺市で考案されたリング式のナイフ。

朝日新聞社

朝日新聞社

日刊スポーツ

朝日新聞社

▲晴れやかに、第20回文化勲章(11月3日)授与式は仮宮殿西ノ間で行われた。左から作家の吉川英治、前最高裁長官の田中耕太郎、作家の佐藤春夫、数学者の岡潔の各氏。

◀大鵬、初優勝(11月27日)大相撲九州場所千秋楽、関脇北葉山を吊り出しで破り13勝2敗で初優勝。同時に66勝24敗で年間最多勝も記録した。場所後、大関に昇進。

昭和35年11月

1(火)●三井三池鉱業所(三池炭鉱)労使、ストとロックアウトを解除。史上最大の三池争議解決。
2(水)●浅沼稲次郎社会党委員長を刺殺した山口二矢、東京少年鑑別所で首吊り自殺。
3(木)●吉川英治や数学者・岡潔ら、文化勲章受章。
4(金)●中小企業向け年末融資二〇〇億円を閣議決定。
5(土)●高校長協会、教育課程無視の大学入試に警告。
6(日)●警視庁小岩署、総選挙革新系候補者の運動員を戸別訪問で現行犯逮捕。初の戸別訪問逮捕。
7(月)●全ソ労組中央評議会、小児麻痺用生ワクチン一〇万人分を贈ると、総評に連絡。
8(火)●米大統領選、民主党のJ・F・ケネディ当選。
9(水)●文部省が理工系中心に大学整備計画と新聞に。
10(木)●ソニー、エサキダイオードの特許を取得。
11(金)●住友銀行、自動車購入資金を貸し付け開始と発表。初の本格的な消費者ローン。
12(土)●NHKなど、三党首のテレビ討論会を初放映。
●本戦と優勝決定戦、あわせて六連戦となった早慶戦で早大優勝。早大の安藤が五度完投。
13(日)●第五回琉球立法院選挙(自民が圧勝)。
14(月)●共産党、三党首討論会からの同党除外は放送法・公選法違反とNHKを告訴。
15(火)●米沢市で栗子国道トンネル起工式(41年完成)。
16(水)●田中耕太郎、国際司法裁判所判事に当選。
●韓国元内務部長官が日本に密入国し亡命申請。
17(木)●静岡県川根町で火災。繁華街の一〇六戸全焼。
18(金)●三和銀行、消費者ローンの開始と三六年からのクレジットカード発行を発表。
19(土)●富士山で雪崩。冬山訓練中の五十余人が遭難。
20(日)●第二九回総選挙(自民二九六、民社惨敗)。
21(月)●富田林市のPL教団寮から出火。四人焼死。
22(火)●警察庁、選挙違反で二四二五人処分と発表。
23(水)●大分市での九州医学会で、鹿児島大法医学教室が古い血液からの男女鑑別法を報告。
24(木)●京都市の養老院で入園者五〇人が経理・運営問題から園長の退陣を要求してハンスト。
25(金)●日本医労協統一スト。病院ストが全国へ波及。
26(土)●東京放送、初のディスクジョッキー公募試験。
27(日)●生産過剰で卵が暴落、一個約一〇円と新聞に。
28(月)●『中央公論』掲載の深沢七郎「風流夢譚」は皇室を侮辱、と大日本愛国党員が同社に抗議。
29(火)●韓国学生文化使節団四〇人、戦後初の来日。
30(水)●食糧庁長官、三六年一月から米の配給を一人一ヵ月一〇キロに、と表明。

毎日新聞社

▼空飛ぶ新巻き鮭(12月21日)北海道の千歳空港では、本州へ空輸する新巻き鮭の出荷が最盛期を迎えた。飛行機の大型化、ジェット化で作業は順調に進み、「この分だと2万匹を超すでしょう」と日航関係者。

▲新道交法施行でレッカー車出動(12月20日)昭和22年制定の道路交通取締法を全面改正、歩行者優先や交通地獄解消が打ち出された。これにより駐車違反の車を警察官が移動できるようになった。写真は26日、東京で。

朝日新聞社

▼名前は2等車になったが(12月27日)国鉄はこの年7月1日、3等を2等へ、2等を1等へと名称変更したが、乗り心地は以前のまま。この日、鉄道弘済会名古屋営業所は、2等車用に携帯安眠ハンモックを発売した。

▲クリスマス・イブ、各地で狂乱(12月24日)「イブは家庭で」が普及したが、名古屋市のダンスホールでは、5000組のカップルがダンスに興じ(写真)、東京・銀座には、雨にも負けず約90万人が繰り出した。

朝日新聞社

朝日新聞社

昭和35年12月

1(木)●戦後初の日韓定期旅客航路として博多—釜山間に就航の旅客船「泰丸」が博多港を出港。
2(金)●厚生省、『厚生白書』発表。貧富の差拡大。
●俳優の石原裕次郎と北原三枝が結婚。
3(土)●日英文化協定調印。学生・研究者の交流促進。
4(日)●都営地下鉄、押上—浅草橋間が開通。
5(月)●第三七特別国会召集。衆院議長人選で紛糾。
6(火)●外資審議会、川崎航空機の大型ヘリコプター製造技術の米からの導入を認可。
7(水)●葛飾区立堀切中学校で初のテレビ授業実施。
8(木)●最高裁、平事件(24年6月)で、刑法の騒乱罪規定は合憲と判示。一〇五被告の有罪が確定。
●第二次池田内閣成立。
9(金)●フィリピンとの友好通商航海条約に調印。
10(土)●特急「はつかり」が日本初のディーゼルカーに。
11(日)●横浜でロケット遊びがもとで雑木林など延焼。
12(月)●姫新線の踏切で列車とバス衝突。死者一〇人。
13(火)●アジア卓球選手権で男女とも日本が団体優勝。
14(水)●経済協力開発機構(OECD)憲章調印。
●国連総会、植民地独立付与宣言を採択。
15(木)●岡山県の国立ハンセン病療養所、長島愛生園で、医師や患者らが医師充員総決起大会開く。
16(金)●通産省、強制バーター方式の緩和、片道決済承認など、日中貿易規制三告示を改正。
17(土)●小児麻痺生ワクチン研究協議会発足。
18(日)●パキスタンとの友好通商条約に調印。
19(月)●池田首相、中国承認につながるおそれがあるとして、対中貿易は政府間協定以外でと言明。
20(火)●南ベトナム民族解放戦線、結成。
21(水)●全日本自由労働組合、日給六〇〇円、生活保護費倍増などを要求して全国で統一行動。
22(木)●新道交法適用し、東京墨田簡裁が酒酔い無免許運転に罰金四万円(旧法五〇〇〇円)。
23(金)●小倉市の陸自駐屯地で短機関銃など盗難発覚。
24(土)●国立栃木病院でラジウム三ミリグラムが紛失と判明。
25(日)●北海道渡島支庁で「口減らし」のため女子中学生二〇人が芸者置屋にと判明、と新聞に。
26(月)●総理府統計局、家計収支の調査結果を発表。全国の月平均生活費は二万五四四四円。
27(火)●閣議、「国民所得倍増計画」を決定。
28(水)●琉球米民政府、祝日の「日の丸」掲揚を拒否。
29(木)●大蔵省、三六年度の九二六億円減税案を決定。
30(金)●全国のテレビ台数は六〇〇万台に、と新聞に。
31(土)●日本海側に豪雪。列車運休続出し上野駅混雑。

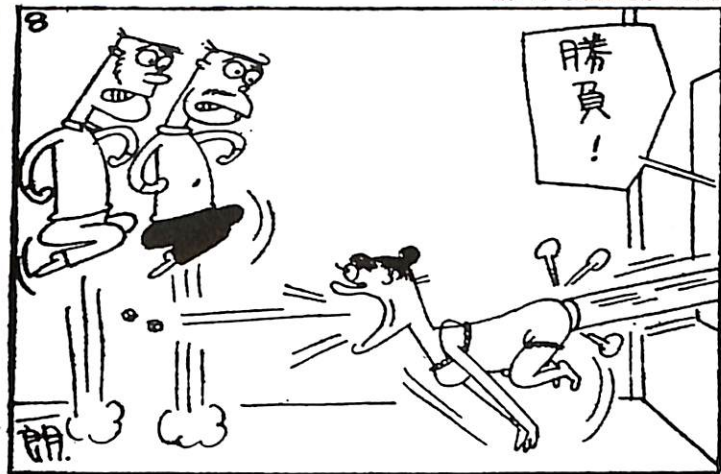
俄(が)楽(らく)多(た)市(いち)

流行語
学生用語の象徴「ナンセンス」

昭和三五年は安保闘争の年であり、日本のスチューデント・パワーが最高に盛り上がった年だった。その学生たちの間で乱発されたのが「ナンセンス」と「異議なし」の二つで、社会現象などに対する評価はみごとなほど、このどちらかに簡略化された。特に既存の権威を否定してかかる若者にとって「ナンセンス」という言葉は気分に合ったらしく、ことあるごとに発せられた。

「セックスこそが最高よ」。一九歳の女優、炎加世子が週刊誌のインタビューで語ったことからたちまち流行した。それは発言の大胆さへの驚きもさることながら、政治的な時代の中で、ひたすらセックスという私ごとを追い求めることへの共感も含んでおり、その後の若者たちの生き方を先取りしていたからだ。

「リバイバル」。この年は「君恋し」「ズンドコ節」「雨に咲く花」など、戦前の流行歌が再び売り出されて大ヒットした。業界ではこれをリバイバル・ソングと呼んだが、戦前の再生・復活は映画、文学にまでおよび、リバイバルが時代の大きな特徴となった。

富永一朗　徳間書店「週刊アサヒ芸能」

▲3月、「週刊アサヒ芸能」で連載開始された富永一朗作「チンコロ姐ちゃん」。

文化
江戸川乱歩も注目 家族だけのSF同人誌

〔大阪発〕大阪に家族だけで空想科学同人誌を出している一家がある。大阪自然科学博物館長の筒井嘉隆さん一家で、雑誌の名は『NULL（ヌル）』という。編集長は長男の康隆君（乃村工芸社勤務、現・作家）、編集スタッフが次男の正隆君（大阪大学法学部）、三男の俊隆君（大阪大学工学部）、四男の之隆君（桃山学院高校）で、これに嘉隆氏と、ママの八重子さんが加わる。

この同人誌、家族だけのものといっても、A5判四八ページの本格的な雑誌で、SFについての発想もそれぞれ違っている。まず康隆君が「時間を逆に人間の中に追いこめた、いわゆる時間ものを書きたい」と言えば、正隆君は「内面的な恐怖を視覚化したミステリーを」と言い、俊隆君は「潜在意識の中の異次元を書く」と目を輝かせる。まだ第一号ができたばかりだが江戸川乱歩氏ら著名作家からも注目され、一流雑誌から転載希望もきている。

（『週刊女性』七月一〇日号）

CM100年

▼三木のり平をモデルにしたアニメで、37年間、人気のシリーズ。

テレビCF
「何はなくとも江戸むらさき
——江戸むらさき」（桃屋）

住
熱帯のゴキブリが日本に“移住”

この頃からゴキブリ（正しくはチャバネゴキブリ）が急速にふえ始めた。ゴキブリの原産地は東北アフリカで、日本で初めて発見されたのは明治三三年初め。以後、繰り返し上陸したが、害虫化するほどはふえなかった。熱帯原産の虫なので冬を越せなかったのだ。

それがなぜ？　理由はビルや家庭で暖房がゆきわたり越冬場所を提供されたから。ゴキブリにとって日本の寒い冬でも、くつろげる場所を発見したというわけ。

それにつれて女性の間にゴキブリ嫌いの感情も広がり、翌三六年には小児麻痺の感染媒体と騒がれたこともあって嫌悪の対象として定着した。

（『昭和家庭史年表』河出書房新社）

▼6月5日、ラジオ福島主催で、「CMソングのど自慢コンクール」が開かれた。

データ
銭湯でのお湯使用量 女性は平均三〇杯

都内の銭湯は二四三三軒、一軒当たりの利用客は平均六〇〇人。入浴時間は男性五〇分、女性一～二時間。男性は一五～三〇杯の湯を使い、女性は平均三〇杯。多い人は五〇杯以上。

（『サンケイ新聞』三月二〇日）

はやり歌

潮来笠

一
潮来(いたこ)の伊太郎　ちょっと見なれば
薄情そうな　渡り鳥
それでいいのさ　あの移り気な
風が吹くまま　西東　なのにヨー
なぜに眼に浮く　潮来笠

二
田笠の紅緒(べにを)が　ちらつくようじゃ
振り分け荷物　重かろに
わけはきくなと　笑ってみせる
粋(いき)な単衣(ひとえ)の　腕まくり　なのにヨー
うしろ髪引く　潮来笠

▲佐伯孝夫作詞、吉田正作曲。橋幸夫17歳のデビュー曲で、レコード大賞新人賞を受賞した。

アカシヤの雨がやむ時

一
アカシヤの　雨に打たれて
このまま　死んでしまいたい
夜が明ける　日が昇る
朝の光の　その中で
冷たくなった　私を見つけて
あのひとは　涙を流して
くれるでしょうか

二
アカシヤの　雨に泣いている
切ない胸は　わかるまい
想い出の　ペンダント
白い真珠の　この肌で
淋しく今日も　暖めてるのに
あのひとは　冷たい眼をして
どこかへ消えた

三
アカシヤの　雨がやむとき
青空さして　鳩がとぶ
むらさきの　はねのいろ
それはベンチの　片隅で
冷たくなった　私の脱けがら
あのひとを　探して遙かに
飛び立つ影よ

▲水木かおる作詞、藤原秀行作曲の「アカシヤの雨がやむ時」を歌った西田佐知子。歌唱力は抜群だった。

三面記事
「トイレット部長」の観察成果

この年四月、駅トイレのエピソードを集めたエッセイ集『トイレット部長』が出版されてベストセラーになった。著者は藤島茂。駅舎の設計建築を担当する国鉄の専門家である。同書によると、駅の便所は女子用三、男子小便用八、男子大便用四の比率で備えてあることが多く、東京駅の場合、女子用五一個、男子小便用一二六個、男子大便用七一個の合計二四八個がある。

「神田駅の調べでは一個の男子用便器が一時間に八〇・八回使われていた。……利用時間は男子の小便が三一秒七から三一秒九。大便は五分二八秒。女子の場合は一分三三秒が平均で最短時間は一〇秒フラットだった」

調査はトイレの鍵（男子小便は足の踏み台）に電流を通して、それを別室で勘定したのだが、一〇秒というのはトイレの鍵を閉めてから開けるまでだから、実質所要時間はさらに短縮されるそうだ。

交通事故死傷者数で競輪を予想、アタると人気

〔大阪発〕交番に掲示されている「昨日の交通事故死傷者数」が、大阪ではもっぱら競輪の予想用に利用されている。死者数と負傷者数の一の位の連番で連勝式を占うのだが、“車にアタる”というので大変な人気という。

（『日本』一月号）

弁慶の碑？ 碓氷峠の“怪人気”

〔群馬発〕中仙道(なかせんどう)は碓氷峠(うすい)の近く（群馬県松井田町）にこんな数字が刻まれた碑が立っている。

「八万三千八三六九三三四七一八二四五十三二四六百四億四六」

これで「山道は寒く寂(さび)しな一つ家に夜ごと身にしむ百夜置く霜(しも)」と読むのだそうだ。伝説によると弁慶が詠(よ)んだと伝えられ、付近の人たちは“弁慶の碑”と呼んでいるが、誰がいつ建てたのかいっさい不明。最近は若者たちの間で変な碑として人気を集めている。

（『週刊文春』七月一八日号）

モニュメント
三四〇万人の髪の毛で作った五輪マーク

〔佐賀発〕佐賀市に住む奥島という中学の先生がローマ・オリンピックにちなみ、三〇カ国、三四〇万人から送られた髪の毛で五輪マークを作った。昨年から編み始めたもので、五つの輪ともそれぞれ直径一メートル、重さ四〇キロもあり、どの輪にもブラック、ブラウン、ブロンド、オーバーン（とび色）、アッシュ・ブロンド、グレー、はては白毛から赤毛まで、色の部分だけで一〇〇万人の髪が使われた。

この先生は、国際的な平和団体の日本の役員をつとめており、材料の髪の毛はこの団体を通して集められた。

（『漫画読本』一〇月号）

ショー
ロンドンのキャバレーでストリップ記念祭

ロンドンの大キャバレーでストリップ誕生六七年祭というのが盛大に行われた。世界で初めてストリップが行われたのは、一八九三年二月のことで、パリのモンマルトル・ブランシュ広場の小劇場に集った画家、彫刻家、舞踏家たちの前で「モナ」というダンサーが、即興で踊ったのが初めてとされている。

このセレモニーは“第一号”モナの功績を記念するために行われたもので、一流ストリッパーのショーの後、ハダカのピアニストが弾くクラシック音楽が流れる中で、美しいストリッパーの手により、厳粛にモナのブロンズ額の除幕式が行われた。

（『別冊週刊サンケイ』五月一日号）

▲この頃、子どもたちの間で、銀色の玉が飛び出す銀玉鉄砲が、大はやりだった。

▼人形の浴衣が売られている大阪・心斎橋の露店。

朝日新聞社

この年の初もの
歯並びの全面矯正技術アメリカから輸入

●さけフレーク　新潟の加島屋から発売された。

●アニメCM　「ヤン坊マー坊」「カステラ一番」など数種。

●自動皿洗い機　一台五万九〇〇〇円。ただし普及しなかった。

世界の動き

コンゴ共和国、独立後一週間で内乱に！ “ルムンバの悲劇”はなぜ起こったか

▲独立を喜ぶコンゴの人々。しかし1週間後、内戦が勃発する。SIPA PRESS／オリオンプレス

▲7月22日、支持者の集会に出席したコンゴ共和国ルムンバ首相（右上）。カタンガ州の一方的な独立宣言から10日あまり、ベルギー軍が居すわるなど、紛争は泥沼化の様相を見せ始めていた。ARCHIVE PHOTOS ユニフォト・プレス

一九六〇年六月三〇日、コンゴ共和国は独立を達成する。だが、独立後わずか一週間で内部分裂し、動乱が始まった。「アフリカの年」と言われたこの年、アフリカでは一七ヵ国が独立したが、新興諸国はその後多くの苦難に直面した。コンゴの悲劇は、それを象徴するものだった。

コンゴ独立運動の指導者パトリス・ルムンバの悲劇

一九六〇年七月一〇日にコンゴ（現・ザイール）から分離独立したカタンガ州政府は、翌六一年二月一三日、突然、コンゴ共和国独立運動の指導者で前首相のパトリス・ルムンバ（三五）が、カタンガ州の州都エリザベートビルの刑務所を脱走し、スタンリービル（現・キサンガニ）に向かう途中、コルウェジ付近で住民に殺害されたと発表した。

ルムンバは前年の一九六〇年六月三〇日、コンゴがベルギーから独立すると同時に首相となり、中央集権的な単一国家をめざした。しかし地方分権を唱えるカサブブ大統領と対立し、その年九月五日、カサイ州のムウェカ付近で逮捕され、カタンガ州で投獄されていた。ルムンバが獄中から妻のポーリーヌにあてた手紙が残されている。

「……世界のすべての自由諸国は常にコンゴ人民の味方であり、植民地主義者やその信奉者が一人もいないコンゴが、いつかは来るものと信じている」

殺害の発表直後から、彼は住民ではなく、カタンガ分離政府の手で殺されたのだとする噂が広まっていた。

事態を重視したハマーショルド国連事務総長は、「真相の徹底調査を続ける」と声明する。しかし、死の真相は明らかにならなかった。

一国の首相殺害をめぐる国際世論の高まりは激しかった。一方、西側諸国は、ルムンバ派が、ソ連をはじめとする東側諸国との結びつきを一層強めて共産主義化することを恐れた。

こうした状況の中、国連安保理事会は一九六一年二月二一日、コンゴ問題に関する決議S四七四一号を採択する。内戦防止のために武力行使を含むあらゆる措置をとる、とする内容だった。この決議には、アメリカ、イギリスも賛成票を投じた。コンゴの統一を回復させる方向に西側諸国が動き始めたのである。

指導者同士の対立に部族間対立が加わる

コンゴ共和国の首都レオポルドビル（現・キンシャサ）でベルギー人将校に対する反乱が起こったのは一九六〇年六月三〇日の独立記念式典からわずか六日後、七月六日のことだった。

当時コンゴ国軍は二万五〇〇〇人。そのうちの将校約一一〇〇人はほとんどがベルギー人を中心とした白人だった。コンゴ政府は「将校のコンゴ化」を進める予定だったが、兵士たちは待ち切れず、不満が爆発し、それが全土に波及したのである。

反乱の拡大を恐れたベルギーは七月一〇日、在住ベルギー人の保護を目的に軍隊を出動させ、兵士たちの間で衝突が起こり、コンゴ側に約三〇〇人、ベルギー側にも二二人の死傷者が出た。さらに各地で白人に対する暴行事件が頻発してい

外から見たNIPPON

道頓堀と釜ケ崎に興奮! 写真家エルスケンの大阪探訪

——佐伯 修

「一九六〇年の一月から二月にかけての数週間、朝から晩まで、『ちょっとした』人間を探しながら道頓堀と釜ケ崎地区を根気よくまわった。小型のライカと広角レンズ、それに高感度の白黒フィルムを持って。

充分に大都市なのにもかかわらず、この街は洗練されることを嫌い続けて来たように思う。アフリカで体験した動物狩りのことを思い出していた。銃ではなくレンズを手に私はこの街に興奮していた。

私は好き嫌いのはっきりしている写真家だ。よく釣り合いのとれた、尊敬すべき、調和を重んずる、平均的な市民といった人々はあまりカメラを向ける気にはなれない。

釜ケ崎は労働者階級の居住地域で、ちょっとスラム、ちょっと紅灯の巷のにおいもする。私好みの人々に出会えるのは、まずこういった町だ」(中野恵津子訳)

オランダ、アムステルダム生まれの写真家、エド・バン・デル・エルスケン(一九二五~九〇)は、昭和六二年に刊行された写真集『ニッポンだった 1959・1960』でコメントしている。

この時の、彼のレンズによる〝狩り〟の獲物は、東映アクション映画から抜け出てきたような、黒いソフトにネクタイ、トレンチコートできめた愚連隊であり、夜の女の自殺騒ぎであり、「防犯」と「性病予防」を名目に、強姦、無理心中、梅毒の末期症状などを、蠟人形により、どぎつく再現した「展覧会」などなどである。

あるいは、少し前まで普通に見られた、元旦になるとモーニングなど着て、妻子を従えて年始まわりをするお父さんや、ねんねこ半纏で赤子を背負った子守りの少女たちの姿も、そこにはある。

それらの、柔らかなモノクローム画像からは、たんにインパクトの強さとか、ノスタルジーとかでは説明しきれない、一種の神々しさが漂ってくるように思われる。

ニューヨークでエドワード・スタイケンに学び、〝報道写真〟とは異質な記録写真を撮り続けたエルスケンは、日本には、生涯で十数回長期滞在し、ファンも多い。新潟には「エルスケン」というバーもあるとか。とりわけ一九八〇年代には毎年来日、新宿のホームレス、原宿のロッカー、歌舞伎町のオカマらにもシャッターを切った。

原宿の路上の「竹の子族」の踊りを、彼は「揺れる葦、揺れる竹のようにエレガントな踊り」と評し、気おちしたインテリ風のホームレスを撮った写真には、「クロサワ的雰囲気の写真」とみずから銘打っている。

▶ジャズを愛し、写真集「ジャズ」もある。

朝日ソノラマ提供

た。一例をあげると——。七月五日、キザンツ地区に住むベルギー人の婦人は、突然侵入してきた数人の黒人兵士に交互に暴行を加えられた。さらにその夜、一二人の黒人兵士と憲兵一人がやって来て、主人と子どもたちを外に追い出して、順番に暴行を加えた。

七月一〇日、鉱物資源の豊かなカタンガ州が分離独立を宣言すると、コンゴ中央政府は国連軍の介入を要請する。

しかし暴動はおさまらず、むしろルムンバとカサブブの対立が決定的となり、これに部族間の対立が加わって、内乱は複雑な様相を示し始めた。

現在までもつながる植民地支配の後遺症

この年に独立した一七ヵ国の中で、なぜコンゴだけがこのような悲劇を経験しなければならなかったのだろうか。

コンゴの独立には、当初から不安材料が指摘されていた。二〇〇以上の部族とその利害を代表する六〇もの政党。中央政府は、基本的な考え方を異にする指導者の連合にならざるをえなかった。しかも、独立の準備期間はわずか六ヵ月しかなかった。

アフリカ現代政治に詳しい小田英郎慶応大学教授は、

「ほかのアフリカ諸国が間接的な植民地支配を受けたのと違い、コンゴはベルギー人が、直接的、強圧的な支配を続けた。このためコンゴ人は政治から隔離され、国民意識が未成熟なまま、独立運動にも十分な時間をかけることのないまま先を急いでしまった。一九六〇年は国連総会で植民地独立付与宣言が採択された年。自治能力がないから独立させないという理屈は通用せず、ベルギー側にしてもこれがアフリカの潮流だということで譲歩せざるをえなかった」

と、独立にいたるまでの準備不足を指摘する。

戦乱は一九六二年末の国連軍のカタンガ州総攻撃によって一応終結した。

しかし、新しい独立国を自己の勢力下において国際社会での発言権を強化しようとする東側諸国の戦略と西側の反撃などが事態を複雑にし、その後の紛争をより長期化させた。

歴史や文化・風土を無視してアフリカを分割し合った欧米列強の植民地主義こそが、コンゴ分裂の最も根本的な原因だった。この問題は、後のビアフラ戦争、さらに現在アフリカがおかれているさまざまな困難に直接つながっている。

パトリス・ムルンバ(1925~1961)

ザイールの政治家。一九五八年、コンゴ民族運動(MNC)の創設に参加。一九六〇年、独立とともにコンゴ共和国(現・ザイール)初代首相。コンゴ動乱により、カサブブ大統領に解任される。その後逮捕され、殺害される。

▼反ルムンバのデモ行進で、逮捕されるコンゴ人。

WWP

往きて還らぬ

▲12月5日 岸上大作(21)

歌人。国学院大在学中、60年安保闘争を詠んだ「意志表示」を発表。学生歌人として注目を集めたが、服毒自殺。

高瀬隆和提供

▲11月10日 福島繁太郎(65) 美術収集家。大正12年パリに定住、画家たちと交遊してピカソ、マチスらの作品を収集、〝福島コレクション〟を築いた。

共同通信社

▲11月16日 クラーク・ゲーブル(59)

映画俳優。男性的な力強い演技で人気を博し、「風と共に去りぬ」のレット・バトラー役は多くの女性を魅了した。

▲4月23日 賀川豊彦(71)

宗教家で、大正から昭和初めの労働・農民運動のリーダー。自伝的小説「死線を越えて」はベストセラーに。

▲1月4日 アルベール・カミュ(46)

1942年小説「異邦人」を発表、不条理作家として知られた。1957年ノーベル文学賞受賞。自動車事故で急死。

▲12月26日 和辻哲郎(71)

哲学者。京大、東大教授を歴任。日本的倫理思想の研究で知られる。著書に『古寺巡礼』『鎖国』など。

▲11月19日 吉井勇(74)

歌人。明治42年北原白秋らと「スバル」創刊。耽美派として知られ、歌集に『酒ほがひ』『祇園歌集』など。

▲4月25日 中島久万吉(86)

大正・昭和初期の代表的な実業家。古河財閥を経て横浜電線製造、横浜護謨などを設立。昭和7年商工相に就任。

▲1月24日 火野葦平(52)

小説家。「糞尿譚」で芥川賞受賞。日中戦争の従軍体験をもとにした『麦と兵隊』がベストセラーに。睡眠薬自殺。

▲11月28日 常ノ花寛市(出羽海)(64) 31代横綱で優勝6回。上手やぐらを得意とした。戦後は相撲協会理事長として蔵前国技館建設に尽力。

▲5月30日 B・パステルナーク(70)

ソ連の作家、詩人。政治的圧力と闘い続け、1958年小説「ドクトル・ジバゴ」でノーベル賞に選ばれたが、辞退。

▲3月17日 藤原銀次郎(90)

実業家。王子製紙を再建、〝製紙王〟と呼ばれた。戦時中は商工相などを歴任、戦後は植林運動に力を注いだ。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第12号 4月22日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1961［昭和36年］

●**特集**
「地球は青かった」 ガガーリン少佐、人類初の宇宙飛行／ピーク時には年間四六万人！ 高度経済成長を支えた「金の卵」たち／「四〇年間お待たせしました」アンネ発売／韓国でクーデター勃発！ 朴正煕少将、権力掌握

●**ニュース・ファイル**
フォト＋日録で再現する365日…北陸地方、雪に埋まる（1月1日）／ケネディ、米大統領に就任（1月20日）／日本テレビ、「シャボン玉ホリデー」放映開始（6月4日）／「ベルリンの壁」構築（8月13日）／第二室戸台風、近畿地方に猛威（9月16日）／中村錦之助・有馬稲子結婚（11月27日）

●**人物クローズアップ**
大鵬幸喜、柏戸とともに横綱に昇進

●**決定的瞬間**
初の亡命東独兵士の"自由"への跳躍

●**美の出会い**
「トリスを飲んでハワイへ行こう」、山口瞳の名コピーとアンクルトリス

●**女たちの肖像**…ザ・ピーナッツのそれぞれの道／**勝者・敗者**…ヘーシンク、日本柔道に完勝／**証言・あの日この日**…外村繁、山下清／**20世紀博物館**…大名時計博物館（東京・台東区）／**「現場」を歩く**…水島コンビナートの企業と住民／**外から見たNIPPON**…リースマン夫人の『日本日記』

●**ベストセラー**…時代を先取りした『英語に強くなる本』／**スターと名場面**…名作「用心棒」と「人間の條件」／**モノ語り'61**…溶けにくい「マーブルチョコ」

ミニ事典

1960年のキーワード

日本科学技術振興財団

産学協同を促進し、科学技術の振興をはかるため、三月一五日に設立され、東京丸ノ内工業倶楽部で創立総会を開いた。会長には日立製作所社長の倉田主税が就任。産業界からの寄付金と政府補助金を得てのスタートで、科学技術振興のための調査と提案、科学技術関係機関の実情調査と援助なども行う。

貿易為替自由化促進閣僚会議

前年一一月に開かれたガット東京総会で厳しく貿易為替自由化を迫られた日本政府が、一月五日に設置を決定。一二日の第一回会議で自由化三ヵ年計画などの目標を決定、さらに六月二四日には計画内に八〇パーセントの達成をめざすとした。産業界も国際競争力を強化することで対応、三八年には九二パーセントの輸入自由化を実現した。

▲朝日麦酒の企業イメージ広告。

企業イメージ広告

「朝日新聞」（二月二七日）に「ビールつくり三代」のコピーで朝日麦酒の広告が掲載された。企業の好感度が消費者志向を左右する要素として重要な時代になったとの認識から、一家三代にわたって同社工場で働く従業員を紹介し、会社の持つ雰囲気をアピールしたもの。この広告を端緒として、この種の企業イメージ広告が頻出するようになった。

石油輸出国機構（OPEC）

イラン、イラク、サウジアラビア、クウェート、ベネズエラの産油国五ヵ国によって九月一四日に結成された生産・価格カルテル。国際石油資本（メジャー）による石油の生産・精製・販売の独占に対抗して設立された。一九七〇年代には二度の石油危機を経て大幅な価格引き上げに成功、メジャーから原油の生産・価格決定権を奪った。

消費者金融

銀行が商品販売会社やサービス会社と提携、その購入代金を立て替え、消費者の支払いを一定期間猶予する金融制度。返済方法が割賦方式のものは消費者ローンという。住友銀行がプリンス自動車販売と提携し、一一月一一日に発表した自動車購入資金貸し付けが本格的なスタート。その後、与信者に金融機関のほか、クレジットカード会社、信販会社、貸し金業者なども参入、広く普及した。

▼「黒いジェット機」と呼ばれたU2型機。米ロッキード社で55機造られたとされる。

U2型機

CIAの出資で米ロッキード社がひそかに開発したアメリカの高高度長距離偵察機。五月一日、ソ連領空を侵犯して撃墜され、スパイ機であることが明らかになった。機体を黒く塗りつぶしているため「黒いジェット機」と呼ばれ、前年には、神奈川県の民間飛行場に不時着、厚木基地にも配備されていたことがわかった。アメリカは七月一〇日、それらすべてを撤去したと日本に通告した。

身体障害者雇用促進法

身体障害者の雇用を促進し、職業生活を安定させるために制定された労働法。七月二五日公布施行。障害の種類や程度に応じて職業訓練・職業紹介を実施することなどのほか、事業主は身障者の雇用につとめなければならないとした。この雇用義務については昭和五一年の法改正で雇用率の一・五パーセント以上と具体的な数値で定められた。

経済協力開発機構（OECD）

先進諸国が経済の高成長の維持、国際貿易の拡大、発展途上国の援助などの目標を達成するために協議する国際機関。一二月一四日、欧州経済協力機構（OEEC）加盟のヨーロッパ一八ヵ国とアメリカ、カナダが調印して結成、翌年九月発足した。昭和三九年には日本も加盟。

レッカー車

故障車や駐車違反の車を移動するのに用いられるクレーンを備えた車両。一二月二〇日施行の新道路交通法で駐車違反の車を警官が移送できることになり、交通警察が利用するようになった。一二月二六日、東京の築地四丁目に違法駐車していた小型車を、警視庁交通機動警邏隊が移送したのが新道交法下での出動第一号。

国民休暇村

国が国立公園や国定公園の景勝地に設置する運動施設、キャンプ場、スキー場、海水浴場など総合レクリエーション設備を持つ宿泊施設。八月二八日、厚生省が五年間で全国二二ヵ所に建設すると発表。財団法人国民休暇村協会が管理・運営、民間保養施設の三分の一から半分の料金で利用できるとした。平成九年現在で全国三二ヵ所に設けられている。

大和ハウス工業提供
▲この年12月、千里ニュータウンに建設されたプレハブ住宅。

プレハブ住宅

工場で生産された部材を現場で組み立てる方式の住宅。プレファブリケーションの略で、工場生産住宅とも言う。富士製鐵系の会社で鋼管構造の仮設建築を始めていた大和ハウスが、八月に試作品を完成。これに改良を加え、昭和三七年一二月、大阪の千里ニュータウンにプレハブによる公共団体用一戸建て分譲住宅を建築し、後のブームの先鞭をつけた。

現代思想研究会

安保条約改定反対運動を続けてきた清水幾太郎・鶴見俊輔ら国民文化会議や日本文化人会議に属する無党派の学者・文化人が、九月三日に結成した組織。全学連が安保改定阻止にはたした役割を評価し、日本共産党を中心とする既成左翼を批判する言論活動を展開、翌年五月には月刊誌「現代思想」を創刊した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1960 CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室＋渡邉裕二
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　㈲エービーシープレス　㈱カマル社　㈱コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　㈲マックス　㈲マライカ
鍵和田良輔　小松邦宏　張替政展　藤森雅弘　結城順一　吉田忠正
●写真協力
浮谷和栄　河西一　高瀬隆和　但馬一憲　田中眞知郎　田村茂　長尾靖　長野重一　野上透　平野美津子
ARCHIVE・PHOTOS　朝日新聞社　朝日ソノラマ　オリオンプレス　共同通信社　工藤写真館　SIPA・PRESS　日刊スポーツ　Popperfoto　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　読売新聞社　WWP
アラビア石油　松竹　大和ハウス工業　東宝　㈶日本相撲協会
ポリドール　三越　宮内庁

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1960
●安保闘争、運命の六月一五日 4月29日号
第1巻第11号 通巻11号
平成9年4月29日発行(毎週火曜日発行)
編集人 近藤達士 発行人 丸本進一 発行所 株式会社 講談社 発売所
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604
定価560円 本体533円

雑誌 23705-4/29 Ⓛ-2001/1/1 T1123705040566

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社